

2020年度

教 育 計 画

滋賀県立総合保健専門学校
看護専門課程 看護学科

目 次

I 教育目的・目標	1
1. 看護学科教育理念	1
2. 看護学科教育目的	1
3. 看護学科教育目標	1
II 授業科目・授業時間数および単位数	2
III 実習要綱	
1. 授業科目（臨地実習）	4
2. 実習計画表	5
3. 実習施設	6
IV 行事計画	7
V 授業科目内容	
1. 基礎分野	9
2. 専門基礎分野	23
3. 専門分野 I	45
基礎看護学	46
（臨地実習）	63
4. 専門分野 II	65
成人看護学	66
（臨地実習）	72
老年看護学	75
（臨地実習）	79
小児看護学	81
（臨地実習）	87
母性看護学	88
（臨地実習）	92
精神看護学	93
（臨地実習）	99
5. 統合分野	101
在宅看護論	102
（臨地実習）	106
看護の統合と実践	107
（臨地実習）	112
VI マトリックス	
1. 事例	115
2. 看護技術	117

Ⅱ 授業科目・授業時間数および単位数

授業科目		単位	時間	年次							
				1年次		2年次		3年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の 基盤	物理学	1	30	30						
		国語表現法	1	15	15						
		情報科学	1	30			30				
		環境人間学	1	30	30						
		小計	4	105							
	人間と生活、 社会の理解	文化人類学	1	30	30						
		人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	1	30	30						
		人間関係論 II (援助的人間関係の基礎)	1	15			15				
		哲学	1	30					30		
		教育学	1	30	30						
		心理学	1	30	30						
		英 語	1	30	30						
		経済学	1	30						30	
芸術(身体表現)	1	15			15						
	小計	9	240								
	計	13	345								
専門基礎分野	人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ(細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	1	30	30						
		解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)	1	30	30						
		解剖生理学Ⅲ(消化器・腎泌尿器、生殖器)	1	30	30						
		解剖生理学Ⅳ(神経、内分泌、感覚器)	1	30	30						
		生化学	1	30	30						
		小計	5	150							
	疾病の成り立ち と回復の促進	栄養学	1	30		30					
		薬理学	1	30		30					
		微生物学	1	30		30					
		病理学	1	15	15						
		疾病・治療論Ⅰ(筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	1	30		30					
		疾病・治療論Ⅱ(呼吸器疾患、循環器疾患)	1	30		30					
		疾病・治療論Ⅲ(血液・造血器疾患、消化器疾患)	1	30		30					
		疾病・治療論Ⅳ(腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)	1	30			30				
	疾病・治療論Ⅴ(脳神経疾患、内分泌疾患)	1	30			30					
	疾病・治療論Ⅵ(感覚器疾患)	1	15				15				
		小計	10	270							
	健康支援と社会 保障制度	公衆衛生学	1	15						15	
		健康支援論	1	15		15					
		リハビリテーション論	1	15			15				
		社会保障制度	1	30				30			
総合医療論		1	15						15		
関係法規		1	15						15		
	小計	6	105								
	計	21	525								
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	30						
		共通基本技術Ⅰ(技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15	15						
		共通基本技術Ⅱ(環境・バイタル・感染予防)	1	30	30						
		共通基本技術Ⅲ(看護過程)	2	45		45					
		日常生活援助技術Ⅰ(運動・休息)	1	30	30						
		日常生活援助技術Ⅱ(清潔・衣)	1	30		30					
		日常生活援助技術Ⅲ(食・排泄)	1	30		30					
		診療に伴う技術Ⅰ(診療の補助技術)	1	30		30					
		診療に伴う技術Ⅱ(治療時の看護)	1	30			30				
		臨床看護総論	1	30		30					
	フィジカルアセスメント	1	30			30					
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ(療養生活の理解)	1	45	45						
		基礎看護学実習Ⅱ(日常生活の援助)	2	90		90					
		計	15	465							

	授業科目	単位	時間	年次							
				1年次		2年次		3年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅰ(急性期にある対象の看護)	2	45			45				
		成人看護学援助論Ⅱ(回復期にある対象の看護)	1	30			30				
		成人看護学援助論Ⅲ(慢性期にある対象の看護)	1	30				30			
		成人看護学援助論Ⅳ(終末期にある対象の看護)	1	30				30			
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ(成人期の特徴をふまえた看護)	2	90			90				
		成人看護学実習Ⅱ(急性期・回復期の看護)	2	90					90		
		成人看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期の看護)	2	90						90	
		小計	12	435							
	老年看護学	高齢者看護学概論Ⅰ(老年期、加齢の概念)	1	15		15					
		高齢者看護学概論Ⅱ(高齢者と社会)	1	15			15				
		高齢者看護学援助論Ⅰ(日常生活援助と終末期看護)	1	30			30				
		高齢者看護学援助論Ⅱ(治療処置別・症状別看護)	1	30				30			
	臨地実習	高齢者看護学実習Ⅰ(高齢者の理解)	1	45			45				
		高齢者看護学実習Ⅱ(高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135				135			
		小計	8	270							
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ(小児看護の役割)	1	15		15					
		小児看護学概論Ⅱ(小児の成長と発達)	1	30			30				
		小児看護学援助論Ⅰ(疾患の理解と症状別看護)	1	30			30				
		小児看護学援助論Ⅱ(健康の段階、発達段階に応じた看護)	1	30				30			
	臨地実習	小児看護学実習	2	90					90		
		小計	6	195							
	母性看護学	母性看護学概論	1	15		15					
		母性看護学援助論Ⅰ(母性のライフサイクルと看護)	1	30			30				
母性看護学援助論Ⅱ(妊娠期、分娩期の看護)		1	30			30					
母性看護学援助論Ⅲ(産褥期、新生児期の看護)		1	30				30				
臨地実習	母性看護学実習	2	90					90			
	小計	6	195								
精神看護学	精神看護学概論Ⅰ(精神看護の基本概念と精神の健康支援)	1	30		30						
	精神看護学概論Ⅱ(精神保健福祉活動の動向)	1	15			15					
	精神看護学援助論Ⅰ(精神疾患の理解と精神看護の特徴)	1	30			30					
	精神看護学援助論Ⅱ(疾病の経過に応じた看護)	1	30				30				
臨地実習	精神看護学実習	2	90					90			
	小計	6	195								
	計	38	1290								
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ(在宅看護の概念)	1	15			15				
		在宅看護論Ⅱ(在宅ケアシステム)	1	15			15				
		在宅看護援助論Ⅰ(日常生活援助・医療処置を伴う援助)	1	30				30			
		在宅看護援助論Ⅱ(在宅で療養する人と家族の援助)	1	30				30			
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90					90		
		小計	6	180							
	看護の統合と実践	総合看護	1	30					30		
		看護医療安全	1	30				30			
		災害看護	1	30					30		
		看護技術評価	1	15					15		
臨地実習	統合実習	2	90					90			
	小計	6	195								
	計	12	375								
				540	555	600	495	450	360		
合計				99	3000	1095	1095	810			
				39単位		38単位		22単位			

Ⅲ 実習要綱

1. 授業科目（臨地実習）

分野	授業科目		単位	時間	時期	施設	目的
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ (療養生活の理解)	1	45	1年前期	病院	病院での療養生活を理解し、看護を实践するための基礎的能力を養う。
		基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)	2	90	1年後期	病院	看護の対象者を理解し、対象者に合わせた看護を实践するための基礎的能力を養う。
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ (成人期の特徴をふまえた看護)	2	90	2年前期	病院	健康問題をもつ成人期の対象の看護を实践する能力を養う。
		成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期の看護)	2	90	3年前期	病院	急性期・回復期にある成人期の対象を理解し、看護が实践できる能力を養う。
		成人看護学実習Ⅲ (慢性期・終末期の看護)	2	90	3年後期	病院	慢性期・終末期にある成人期の対象を理解し、看護が实践できる能力を養う。
	老年看護学	高齢者看護学実習Ⅰ (高齢者の理解)	1	45	2年前期	介護老人保健施設 介護老人福祉施設	高齢者の特徴を理解し、看護の实践に必要な基礎的能力を養う。
		高齢者看護学実習Ⅱ (高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135	2年後期	病院	疾病や障害をもちながら療養生活をおくる高齢者を理解し、看護を实践できる能力を養う。
	小児看護学	小児看護学実習	2	90	3年	養護学校	特別支援学校での教育を通して、障害がある子どもの特徴を理解する。
						病院	健康障害をもつ小児を理解し、小児とその家族の看護を实践できる能力を養う。
	母性看護学	母性看護学実習	2	90	3年	病院	周産期を対象を理解し、看護が实践できる基礎的能力を養う。
	精神看護学	精神看護学実習	2	90	3年	病院	精神に障害を持つ対象と家族の特徴を理解し、看護を实践できる能力を養う。
						社会復帰施設	社会復帰支援施設での活動を通して、精神障害をもちながら地域で生活するための支援について理解できる。
統合分野	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90	3年	訪問看護 ステーション	在宅療養者とその家族を理解し、看護を实践できる能力を養う。
	看護の統合と実践	統合実習	2	90	3年後期	病院	既習の学習を統合し、専門職として看護が实践できる能力を養う。

2. 実習計画表

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年					基礎看護学実習 I	夏期休暇						
										基礎看護学実習 II		
2年					高齢者看護学実習 I	夏期休暇						
						成人看護学実習 I					高齢者看護学実習 II	
3年					母性看護学実習	夏期休暇						
	成人看護学実習 II	小児看護学実習 II	精神看護学実習 II	成人看護学実習 II	小児看護学実習 II	精神看護学実習 II	成人看護学実習 II	小児看護学実習 II	精神看護学実習 II	成人看護学実習 II	小児看護学実習 II	精神看護学実習 II
<p>在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習</p>												
<p>統合実習</p>												
<p>冬期休暇</p>												

3. 実習施設

病 院		訪問看護ステーション	
1	滋賀県立総合病院	1	訪問看護ステーションなかさと
2	滋賀医科大学医学部附属病院	2	訪問看護なかさとCCS
3	滋賀県立小児保健医療センター	3	市立野洲病院訪問看護ステーション
4	滋賀県立精神医療センター	4	訪問看護ステーションヴォーリズ
5	近江八幡市立総合医療センター	5	甲賀市社協訪問看護ステーション
6	市立野洲病院	6	友仁訪問看護ステーションすずらん
7	公立甲賀病院		
8	済生会滋賀県病院		
9	湖南病院		
10	高島市民病院		
11	東近江総合医療センター		
12	草津総合病院		

介護老人保健施設		精神障害者福祉施設	
1	アロフェンテ彦根	1	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型 シエスタ 就労継続支援B型 こなんSSN
2	寿々はうす		
3	地域医療機能推進機構 滋賀病院附属介護老人保健施設		
4	ケアタウン南草津		
5	ケアポート栗東		
介護老人福祉施設		養護学校	
1	ゆいの里	1	滋賀県立草津養護学校
2	淡海荘	2	滋賀県立野洲養護学校
3	悠紀の里		
4	美松苑		
5	桐生園		

IV 行事計画

月	1年	2年	3年
4	入学式 入学時研修 合同親睦会 健康診断	始業式 合同親睦会 健康診断	始業式 合同親睦会 健康診断
5			
6	健康診断 特別講義（人権研修）	健康診断	健康診断
7	特別講義 大掃除	特別講義 大掃除	特別講義 大掃除
8	夏期休暇	夏期休暇	夏期休暇
9			
10	防災訓練	防災訓練 2年次研修	防災訓練
11			
12	シンポジウム 大掃除	シンポジウム 大掃除	シンポジウム 大掃除
1	冬期休暇	冬期休暇	冬期休暇
2			(看護師国家試験)
3	大掃除 春期休暇	大掃除 春期休暇	大掃除 卒業式

V 授業科目内容

1. 基礎分野

授 業 科 目		単 位	時 間
科学的思考の基盤	物理学	1	30
	国語表現法	1	15
	情報科学	1	30
	環境人間学	1	30
人間と生活、社会の理解	文化人類学	1	30
	人間関係論Ⅰ（人間関係形成の基礎）	1	30
	人間関係論Ⅱ（援助的人間関係の基礎）	1	15
	哲学	1	30
	教育学	1	30
	心理学	1	30
	英語	1	30
	経済学	1	30
	芸術（身体表現）	1	15
合計		13	345

分野	基礎分野	授業科目名	物理学	担当講師	成瀬 延康
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		物理学の基本法則を理解して看護の実践場面で活用できる能力を養う。			
授業のキーワード		力のモーメント、てこの原理、ボディメカニクス、圧力、体温制御			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 重いものを持つにはどうしたらよいかを理解できる。	(1) 力のモーメント	①力のモーメント（トルク）とは ②ものを支えるとは ③力のモーメントの応用 ④看護動作にみられる力のモーメントの応用	講義	
		(2) てこの原理	①第1、第2、第3種のとこ ②てこの原理の人体への活用	講義	
		(3) 筋肉の張力と関節に働く力	①重いものを持つときの基本	講義	
	2. ボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクスの物理的重点事項	①水平移動、摩擦力 ②急激な速さや方向の変化をさける遠心力、向心力	講義	
		(2) ボディメカニクスの活用	①脊柱起立筋、椎間板にかかる力 ②ベッド上の対象の移動 ③体位変換の時の物理学的考察	講義	
	3. 身近な圧力について理解できる。	(1) 圧力とは	①力と圧力の違い ②圧力の単位 ③大気圧の大きさ ④気圧の変化と人間	講義	
		(2) 体の重心の測定	①人体における重心の測定	講義	
		(3) 治療・検査に関する物理学	①酸素吸入 ②真空採血		
	4. 体温制御の物理が理解できる。	(1) 体温制御の物理	①温度と熱 ②身体各部の温度 ③身体の熱収支の計算 ④体温異常のメカニズム	講義	
テキスト・参考文献		「完全版 ベッドサイドを科学する ―看護に生かす物理学―」 学研			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	国語表現法	担当 講師	新稲 法子
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 「読む」・「書く」・「話す」という日本語の表現方法の基礎を理解する。 2. 論文の書き方の基礎を理解する。 3. 論理的思考ができる能力を養う。					
授業のキーワード					
論文 論理的思考 読解力 文章表現力					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 論理的思考ができる。	(1) 論理的思考	①論理的思考の基礎 ②読解の仕方 ③表現力を磨く		講義
	2. 論文の書き方が理解できる。	(1) 文章表現	①文章作成の原則 ・テーマを見つけるコツ ・キーワードで正しい現状分析 ・問題解決は「論理の3ステップで」 ・事実を観察する目を育てる ・テーマのヒントは「日常の実践」にあり ②文章作成の実際		講義 演習
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	情報科学	担当講師	玉本 拓郎
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		統計の基礎を学び、調査及び情報処理の基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		情報 調査 分析 インターネット 情報倫理 セキュリティ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 統計学を学ぶ意義を理解する。	(1) 情報科学の基礎	①情報とは ②情報科学とは ③保健統計の必要性	講義	
	2. 調査方法及び情報の処理について理解する。	(1) 調査データの分析	①扱う数字のタイプ ②母集団と標本 ③一つの変数の分析 ・度数分布表 ・基本統計量 ④二つの変数の分析 ・クロス集計 ・相関	講義	
	3. コンピュータの基本的な活用ができる。	(1) 情報倫理とセキュリティのためのガイド	①著作権 ②情報の公開と個人情報の保護 ③法律の遵守 ④就業規則関係	講義	
		(2) コンピュータの活用のための基礎知識	①基礎知識 ②インターネット	演習	
		(3) ソフトウェアの活用	①Word による文書作成・表作成 ②Excel による表作成・グラフ作成 ③PowerPoint によるプレゼンテーション作成	演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	環境人間学	担当講師	長谷川 博
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		環境が人々の生活や健康に及ぼす影響について学び、人間とその生活について理解する基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		地球環境 環境問題 現代社会の環境 滋賀の環境			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 環境が人々の生活や健康に及ぼす影響について理解する。	(1)地球環境	①人々の生活と環境 地球環境問題	講義	
	2. 環境の今後の課題について理解する。	(1)環境問題の歴史	①環境問題の歴史の変遷 公害(大気、水、音、化学物質) 核実験 高度経済成長と大量消費 地球規模の環境破壊	講義	
		(2)現代社会の環境と健康問題	①現代社会の環境からみた健康問題 オゾン層の破壊と紫外線 温暖化、乾燥化 大気汚染他	講義	
		(3)環境問題克服のための取り組み	①環境問題の克服 概説 国連・政府の取り組み 環境法、環境経済の必要性、3R	講義	
		(4)身近な環境	①滋賀の環境と環境問題の今後の課題 滋賀の環境 琵琶湖・山々・居住地	講義	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	文化人類学	担当講師	中井 治郎
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		個人や社会、文化について、また、他民族の生活様式・風俗・儀礼などを学び、多様な人間と人間の生活について理解する基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		人間 文化 生活 フィールドワーク 異文化理解 信仰 死			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間・社会・文化についての基礎を理解できる。	(1)人間と文化	①言語とは何か ②シンボルと文化 ③異文化へのアプローチ ④フィールドワーク	講義	
		(2)人間関係と社会	①男と女 生殖、婚姻、家族 ②おとなと子ども 通過儀礼 ③身内とよそ者 親族、ネットワーク	講義	
		(3)生活	①集団と社会 ②農耕、狩猟、経済	講義	
		(4)信仰	①日常生活の中の宗教 ②信仰・世界観・儀礼	講義	
		(5)死	①文化と身体観 ②文化と病気観 ③文化と病気治療 ④死の考え方 ⑤死者儀礼と先祖崇拜	講義	
	2. 他民族の文化・社会を通し、多様な人間について理解できる。	(1)多様な人間・文化・社会	①民族の多様な人間・文化・社会	講義	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	担当 講師	大橋 佳奈
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
人間関係の基礎理論を理解し、人間対人間関係を築くための能力を養う					
授業のキーワード					
人間関係 自己理解 他者理解 コミュニケーション 集団討議					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 保健・医療における人間関係の重要性及び人間関係の理論と技法を理解できる。	(1) 人間生活と人間関係	①自己紹介・他者紹介 ②心の構造について ③自己を知ること ④人間関係のとらえ方	講義 演習	
	2. 社会的相互作用と社会的役割が理解できる。	(1) 社会的相互作用	①自己と他者 ②アイデンティティと人間関係 ③他者による承認 ④社会的相互作用を規定する要因 ⑤成員相互過程、集団討議	講義 演習	
		(2) 社会的役割	①社会的役割とは ②役割関係における葛藤とその解決	講義	
	3. 人間関係形成の技法が理解できる。	(1) コミュニケーションの理論と実際	①コミュニケーション理論 ②ブラインドウォークの体験	講義 演習	
		(2) 人間関係向上へのスキル	①体験学習を通して基本姿勢の理解 共感的理解 自分や他者を受容する 感受性を豊かにする	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	人間関係論Ⅱ (援助的人間関係の基礎)	担当 講師	中村 珠美
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
援助的コミュニケーションを理解し、専門職として他者と関係を築くための能力を養う					
授業のキーワード					
人間関係 自己理解 他者理解 カウンセリング 援助的コミュニケーション					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. カウンセリングの基本的理論について理解できる。	(1) カウンセリングの意義	①カウンセリングの意義 ②対人援助の種類 ③人の話を聞くこと ④カウンセリングの基本的態度 ⑤カウンセリングの技法 ⑥人間関係のとらえ方	講義 演習	
	2. 援助的コミュニケーションの実際について理解できる。	(1) 援助的コミュニケーション	①自己理解と他者理解の実際 ②アイコンタクトとうなずき ③繰り返し ④座り方 ⑤表現の読み取り方	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	哲学	担当 講師	眞泉 善章
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 人間の存在の意味や本質のとらえ方を学び、人間観を深める。 2. 人間の生と死に対する考えを深め、倫理観を養う。					
授業のキーワード					
人間の存在 生と死 倫理 人権 価値観					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 哲学とは何かが理解できる。	(1) 哲学とは何か	①哲学の成立 ②哲学と宗教 ③科学と哲学	講義	
	2. 近代の思想とは何かが理解できる。	(1) 諸外国の哲學家の思想	①近代とは何か ②西洋近代思想 カント デカルト ロック	講義	
	3. 生命倫理問題の経緯とその特質について理解できる。	(1) 生命倫理とは	①生命倫理の基本的な考え方 ②人格論 胎児や脳死など	講義	
	4. 生命の扱いに関する実践問題について理解を深める。	(1) 生と死について	①日本人の死生観 ②安楽死・尊厳死について	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	教育学	担当講師	中島 千恵
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経 験	
授業の目的及びねらい					
1. 教育の意義や目的を理解する。 2. 人間の成長と教育のあり方を理解する。 3. 現代の教育の現状と諸問題・課題が理解できる。					
授業のキーワード					
人間 学習 教育 成長					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間の成長・発達と教育が理解できる。	(1)人間の成長・発達と教育	①教育とは ②人間と学習 ③社会と教育 ④教育の必要性	講義	
		(2)子どもの教育と社会	①教育の目的 ②家庭、学校、社会の教育 ③人間の発達と教育	講義	
	2. 現代の教育の現状と課題が理解できる。	(1)家族の変容と教育	①女性の家族における地位 ②日本における主婦の誕生と変化	講義	
		(2)子ども観、教育観の変遷	①普遍的でない子ども価値 ②日本における家庭教育の変化 ③サラリーマン家庭の意識	講義	
		(3)現代家族の課題	①貧困 ②虐待 ③生活習慣	講義	
		(4)教育・保育の歴史	①保育制度の発展 ②公教育制度	講義	
		(5)学校教育の諸問題	①学校教育とジェンダー ②教育における「平等」と「不平等」 ③学校種間連携と接続	講義	
		(6)学校と地域の連携	①学校・家庭・地域の連携 ②チーム学校	講義	
		(7)生涯教育について	①生涯学習と社会教育 ②生涯学習の指導者の役割	講義	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	心理学	担当講師	福田 香苗
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		人間のこころや行動について学習し、人間を理解する基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		人間 こころ 知覚 認知 脳 記憶 知能 学習 発達			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 心理学とは何か理解できる。	(1) 心理学の問題	①心理学の対象、定義、考え方 ②心理学の領域 ③心理学の方法	講義 演習	
	2. 人間の知覚の成立条件を学び知覚・認知とズレについて理解できる。	(1) 知覚の心理	①知覚の成立条件 ②知覚の種類 ③脳とこころ	講義 演習	
	3. 記憶と忘却について理解できる。	(1) 記憶の心理	①記憶の諸相 ②記憶の過程 ③忘却の心理 ④記憶の工夫	講義 演習	
	4. 思考・想像の相違点と共通点と言語の機能について理解できる。	(1) 思考・想像・言語の心理	①思考作用 ②思考力の発達 ③創造性 ④想像の心理 ⑤言語の心理	講義 演習	
	5. 知能の発達と知能検査について理解できる。	(1) 知能の心理	①知能とは ②知能の発達と変化 ③知能検査	講義	
	6. 学習理論と学習に影響する条件を理解できる。	(1) 学習の心理	①学習の種類 ②学習理論 ③学習に影響する条件 ④練習の心理	講義	
	7. 感情・情緒・情操について理解できる。	(1) 感情・情緒・情操の心理	①感情の心理 ②情緒の心理 ③情操の心理	講義	
	8. 自己と他者、個人と集団について理解できる。	(1) 適応の心理 (2) 性格の心理 (3) 集団の心理	①人と環境 ②適応・不適応 ③適応の規制 ①性格の形成 性格の理解、性格検査、適性検査 ①集団の形成と機能 個人と集団、集団の特徴とはたらき ②集合行動	講義 講義 講義 演習	
	9. 人間各期の発達段階の特徴とその心理について理解できる。	(1) 発達の心理 (2) 医療と心理学	①発達の原理 ②発達段階の特徴 ①心の病と心理療法	講義 講義	
テキスト・参考文献	「心理学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目名	英語	担当講師	寺谷 有香
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 国際化に対応できるコミュニケーション手段としての英語力、特に「聞く」・「話す」・「読む」能力を養う。 2. 英語の文献が読解できる能力と日常生活の英会話ができる能力を養う。					
授業のキーワード					
読解力 ヒアリング コミュニケーション能力 国際化					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 英文を読んで和訳することができる。	(1) 読解力	①英文の資料にそって和訳	講義	
	2. 英文を聞き内容が理解できる。	(1) ヒアリング	①外国映画の鑑賞	講義	
	3. 英会話ができる。	(1) 日常生活の英会話	①オーラルコミュニケーションの育成 ②医療現場での英会話	講義	演習
テキスト・参考文献		「15 Topics for Tomorrow's World」 松柏社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	経済学	担当講師	木下 英雄
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
日本経済の動向を理解し、社会の状況を把握するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
日本経済の動向 日本経済を取り巻く諸問題					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 「経済学とは」を理解できる。	(1) 経済学とは	① 経済学の考え方 ② 経済学の分類 マイクロ経済学とマクロ経済学 ③ 経済学の必要性	講義	
	2. 日本経済の動向について理解できる。	(1) 日本経済のあゆみと経済政策	① 戦後の経済再建と高度経済成長 ② 石油危機と成長率の低下 ③ バブルの発生と崩壊	講義	
		(2) 世界経済の変化と日本	① 世界経済の動向 ② 国際金融市場の動向 ③ 国際貿易システムの変容	講義	
		(3) 日本経済の現状	① 長期停滞とデフレ ② 財政赤字の拡大と再建への取り組み ③ デフレ下の金融政策 ④ 日本経済の課題	講義	
	3. 日本経済を取り巻く諸問題について理解できる。	(1) 雇用環境の変化と課題	① 労働需給の変化と雇用のミスマッチ ② 日本的雇用慣行の変容 ③ 非正規雇用増加の背景と課題	講義	
		(2) 国民生活の現状と格差問題	① 家計の消費・貯蓄の現状 ② 家計保有資産の現状と特徴 ③ 所得格差と貧困	講義	
		(3) 少子高齢化時代の社会保障	① 年金・医療・介護 ② 子育て支援 ③ 社会保障と税の一体改革	講義	
テキスト・参考文献		「日本経済読本 第19版」 東洋経済新報社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業 科目名	芸 術 (身体表現)	担 当 講 師	岩下 徹
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい					
人間のものの見方や考え方、感情など表現されているものを読み取り、感性を養う。					
授業のキーワード					
感性 感情 自己表現					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 身体表現とは何かを理解できる。	(1) 身体表現	① 身体表現とは		講義
	2. 身体の開放とリフレッシュができる。	(1) 感情表現	① 身体感覚の自覚 ② 身体のほぐし ③ 身体を意識した二人の動き		講義 演習
	3. 自己表現ができる。	(1) 心地よい自分なりの表現 (2) 規律と自由	① 決められた動きではなく、自身で動きの創作		講義 演習
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

2. 専門基礎分野

	授 業 科 目	単 位	時 間
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫）	1	30
	解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）	1	30
	解剖生理学Ⅲ（消化器・腎泌尿器、生殖器）	1	30
	解剖生理学Ⅳ（神経、内分泌、感覚器）	1	30
	生化学	1	30
疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	30
	薬理学	1	30
	微生物学	1	30
	病理学	1	15
	疾病・治療論Ⅰ（筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅱ（呼吸器疾患、循環器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅲ（血液・造血器疾患、消化器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅳ（腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅴ（脳神経疾患、内分泌疾患）	1	30
疾病・治療論Ⅵ（感覚器疾患）	1	15	
健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	15
	健康支援論	1	15
	リハビリテーション論	1	15
	社会保障制度	1	30
	総合医療論	1	15
	関係法規	1	15
合計		21	525

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学 I (細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	担当 講師	今本 喜久子
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、筋骨格系、生体の防御機構のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。</p>					
授業のキーワード					
人体の基本単位 細胞 組織 骨 骨格 筋 皮膚 膜 免疫					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 解剖生理学の基礎知識が理解できる。	(1)解剖生理学の理解 (2)細胞・組織 (3)構造と機能からみた人体	①人体とはどのようなものか ①人体の素材としての細胞・組織 ① 構造と機能からみた人体	講義	
	2. 筋・骨格系の構造と機能が理解できる。	(1)骨格系・筋系	①骨格とはどのようなものか ②骨の連結 ③骨格筋 ④体幹の骨格と筋 ⑤上肢の骨格と筋 ⑥下肢の骨格と筋 ⑦頭頸部の骨格と筋 ⑧筋の収縮	講義	
	3. 生体の防御機構について理解できる。	(1)皮膚 (2)免疫 (3)体温	①皮膚の構造と機能 ①生体の防御機構 ①体温とその調節	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業 科目名	解剖生理学Ⅱ (呼吸器・循環器・血液)	担当 講師	林 義剛
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、血液、循環器系、呼吸器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。</p>					
授業のキーワード					
血液 循環 リンパ管					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 循環器系の構造と機能が理解できる。	(1)循環器系	①循環器系の構成 ②心臓の構造 ③心臓の拍出機能 ④末梢循環系の構造 ⑤血液の循環とその調節	講義	
	2. 血液の機能について理解できる。	(1)血液系	①血液の循環とその調節 ②リンパ管 ③血液	講義	
	3. 呼吸器系の構造と機能が理解できる。	(1)呼吸器系	①呼吸器の構造 ②呼吸	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学Ⅲ (消化器・腎泌尿器、生殖器)	担当講師	林 維光
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。 2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。 3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。 4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。 					
授業のキーワード					
栄養 消化 吸収 泌尿器 生殖器 体液 受精 成長 老化					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 消化器系の構造と機能が理解できる。	(1)消化器系	①口・咽頭・食道の構造と機能 ②腹部消化管の構造と機能 ③膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ④腹膜	講義	
	2. 泌尿器系の構造と機能が理解できる。	(1)腎泌尿器系	①腎臓の構造と機能 ②排尿路 ③体液の調節	講義	
	3. 生殖器系の構造と機能が理解できる。	(2)生殖器系	①男性生殖器 ②女性生殖器 ③受精と胎児の発生 ④成長と老化	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学IV (神経、内分泌、感覚器)	担当 講師	今本 喜久子
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、神経系、内分泌系、感覚器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する</p>					
授業のキーワード					
中枢神経 末梢神経 視覚 聴覚 嗅覚 自律神経 内分泌					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 自律神経系の構造と機能が理解できる。	(1)自律神経系	①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神経伝達物質と受容体		講義
	2. 内分泌系の構造と機能が理解できる。	(1)内分泌系	①内分泌系による調節 ②全身の内分泌腺と内分泌細胞 ③ホルモン分泌の調節 ④ホルモンによる調節の実際		講義
	3. 神経系の構造と機能が理解できる。	(1)神経系	①神経系の構造と機能 ②脊髄と脳 ③脊髄神経と脳神経 ④脳の高次機能 ⑤運動機能と下行伝導路 ⑥感覚機能と上行伝導路 ⑦自律神経の構造と機能		講義
	4. 感覚器の構造と機能が理解できる。	(1)感覚器系	①眼の構造と視覚 ②耳の構造と聴覚・平衡覚 ③嗅覚と味覚 ④頭痛		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	生化学	担当講師	成田 宏史 西藤 有希奈
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい					
<p>生きている細胞や組織内に存在する様々な物質やそこで起こる様々な化学反応やプロセスを分子レベルで理解する。</p>					
授業のキーワード					
生命現象		生体成分	代謝	ATP	DNA RNA ホルモン
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 医学を学ぶ者として臨床医学と生化学の関係が理解できる。	(1) 生化学とは	①医学と生化学 ②生体分子 ③生体の構成物質		講義
	2. 解剖生理学で学んだ内容をもとに、細胞小器官内での生化学的反応が理解できる。	(1) 細胞の基本構造と機能	①細胞の基礎 ②膜 ③細胞骨格 ④細胞小器官		講義
	3. 生体を構成する細胞の周期と細胞増殖の機構が理解できる。	(1) 生体成分の構造と機能	①糖質 ②脂質 ③アミノ酸とタンパク質 ④核酸		講義
		(2) 代謝	①酵素と代謝 ②エネルギー代謝とその調節 ③糖質の代謝 ④脂質の代謝 ⑤アミノ酸とタンパク質の代謝 ⑥代謝のまとめ ⑦ヌクレオチドの代謝		講義
		(3) 核酸とタンパク質の生合成	①核酸の構造と機能 ②DNAの複製 ③DNAの修復 ④RNAの合成 ⑤タンパク質の生合成 ⑥遺伝の生化学		講義
		(4) ホメオスタシスとホルモン	①ホルモンの分類 ②ホルモンの作用機序 ③ホルモン各論		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	栄養学	担当講師	佐野 光枝 廣瀬 潤子
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。 2. 臨床栄養の基礎知識を学び、食事療法の基本を理解する。					
授業のキーワード					
栄養素 栄養所要量 生活習慣病と栄養 臨床栄養					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間にとっての栄養の意義を理解できる。	(1) 栄養学とは	① 栄養学のなりたちと目的	講義	
		(2) 栄養素	① 各栄養素の栄養的目的と役割 ・糖質 ・タンパク質 ・脂質 ・ビタミン ・ミネラル	講義	
		(3) エネルギー代謝とエネルギー所要量	① エネルギー代謝 ② 食事摂取基準とエネルギー必要量 ③ ライフステージと栄養 ④ 食品構成と各種食品の特徴	講義	
		(4) 栄養状態の判定	① 栄養状態の判定 ② わが国の栄養の現状と栄養改善 ③ 飲食物の摂取と消化・吸収	講義	
	2. 臨床栄養の基礎知識を学び、食事療法の基本が理解できる。	(1) 臨床栄養の意義	① 臨床栄養の意義	講義	
		(2) 食事療法の概要	① 食事療法の概要 ・栄養状態の評価 ・栄養摂取経路の選択 ・摂取エネルギーの求め方 ・疾病時の栄養所要量 ・病人食の種類 ・食事療法 ② 疾患別食事療法の実際	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	薬理学	担当講師	吉岡 敏彦
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい					
薬物の特徴と作用機序、人体への影響について理解する。					
授業のキーワード					
薬理作用 体内動態					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 薬物の特徴と作用機序、人体への影響について理解できる。	(1) 薬理学総論 (2) 薬理学各論	①薬理学の概念、薬事法規 ②薬理作用 ③薬効に影響を及ぼす要因 ④薬の有害作用 ⑤薬の適用 ⑥各種製剤と処方箋 ⑦処方の実際と看護 ①抗感染症薬 ②抗がん薬 ③免疫治療薬 ④抗アレルギー薬・抗炎症薬 ⑤末梢での神経活動に作用する薬物 ⑥中枢神経系に作用する薬物 ⑦心臓、血管系に作用する薬物 ⑧呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ⑨物質代謝に作用する薬物 ⑩皮膚科用薬・眼科用薬 ⑪救急の際に使用される薬物 ⑫漢方薬	講義	講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	微生物学	担当講師	入野 保
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。 2. 感染症の基礎知識を学び、感染症対策の基礎を学ぶ。					
授業のキーワード					
感染症 微生物学 感染症対策					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解できる。	(1) 微生物学の基礎	①微生物と微生物学 ②細菌の性質 ③真菌の性質 ④原虫の性質 ⑤ウイルスの性質	講義	
	2. 感染症の基礎知識を学び、感染症対策の基礎について理解できる。	(1) 感染とその防御	①感染と感染症 ②感染に対する生体防御機構 ③感染源・感染経路からみた感染症 ④感染症の予防 ⑤感染症の診断 ⑥感染症の治療 ⑦感染症の現状と対策	講義	
	3. 主な病原微生物の感染の特徴と診断・治療について理解できる。	(1) おもな病原微生物	①病原細菌と細菌感染症 ②病原真菌と真菌感染症 ③病原原虫と原虫感染症 ④おもなウイルスとウイルス感染症	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	病理学	担当講師	田中 大典
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 1.5時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 病理学の概念を理解する。 2. 先天的異常の成り立ち、種類を理解する。 3. 組織の退行変性や過形成など進行変性による疾患の成り立ちを理解する。 4. 血液の循環障害による疾患の成り立ちを理解する。 5. 炎症の定義、病変、種類、免疫と疾患について理解する。 6. 腫瘍の定義、性質、種類について理解する。					
授業のキーワード					
病因 先天異常 代謝障害 循環障害 炎症 免疫 腫瘍					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 病理学の概念が理解できる。	(1) 病理学の概念	①病理学とは ②病因論 ③疾病の分類	講義	
	2. 細胞・組織の変性の成り立ちが理解できる。	(1) 細胞・組織の障害と修復	①細胞の損傷と修復 萎縮、肥大、過形成、化生、壊死 ②組織の修復と創傷治癒	講義	
	3. 血液の循環障害による疾患の成り立ちを理解できる。	(1) 循環障害	①循環血液量の障害 浮腫、充血、うっ血、虚血、出血、ショック ②閉塞性の循環障害 血栓症、塞栓症、梗塞 播種性血管内血液凝固症候群	講義	
	4. 先天異常と遺伝子異常の成り立ち、種類を理解できる。	(1) 先天異常・遺伝子の異常	①先天異常の分類 遺伝障害・胎児障害 ②染色体異常と遺伝性疾患 ③奇形と胎児障害 ④先天異常の診断・治療	講義	
	5. 代謝障害による疾患の種類と成り立ちを理解できる。	(1) 代謝障害	①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖質代謝障害 ④そのほかの代謝障害	講義	
	6. 炎症の定義、病変、種類、免疫と疾患について理解できる。	(1) 炎症と免疫	①炎症とその分類 ②免疫と免疫不全 ③アレルギーと自己免疫疾患	講義	
	7. 腫瘍の定義、性質、種類について理解できる。	(1) 腫瘍	①腫瘍の定義と分類 ②悪性腫瘍の広がりと影響 ③腫瘍の発生病理 ④腫瘍の診断と治療	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論Ⅰ (筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	担当講師	山岡 弘明 奥田 晃朗
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
筋・骨関節疾患 アレルギー疾患・免疫疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)筋・骨格系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・骨折、脱臼、神経の損傷 ・筋・腱・靭帯の損傷 ・先天性疾患 ・骨・関節の炎症性疾患 ・骨腫瘍 ・神経の疾患 ・椎間板ヘルニア ・脊髄腫瘍 ・脊髄損傷 ・上肢、下肢の疾患 ・ロコモティブシンドローム・運動器不安定症 ②主な検査 ・画像検査 ・関節造影、脊髄造影検査 ・超音波検査 ・骨密度検査 ・関節鏡 ・関節液検査		講義
	2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)アレルギー・免疫疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・アレルギー反応とその機序 ・アレルギー疾患 ・関節リウマチ ・全身性エリトマトーデス ・強皮症 ・皮膚筋炎・多発性筋炎 ・血管炎症候群 ・膠原病類縁疾患 ②主な検査 ・血液検査 ・免疫学的検査 ・画像検査		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論Ⅱ (呼吸器疾患、循環器疾患)	担当講師	福田 正悟 内田 康和
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
呼吸器疾患 循環器疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1.呼吸器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 呼吸器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・気道の疾患 気管支喘息、気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患 ・肺の疾患 肺結核、肺気腫、肺線維症 肺炎、間質性肺疾患 ・肺腫瘍 ・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ・胸部外傷 ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・呼吸機能検査 ・血液検査 ・喀痰検査 ・生検	講義	
	2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 循環器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療含む) ・心不全 ・不整脈 ・血圧の異常 (高血圧) ・虚血性心疾患 狭心症 心筋梗塞 ・心臓弁膜疾患 ・心筋疾患 (心筋症) ・血管の疾患 ②主な検査 ・画像検査 ・心電図 ・心臓カテーテル検査 ・心臓超音波検査	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論Ⅲ (血液・造血器疾患、消化器疾患)	担当講師	内海 貴彦 松村 和宜
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
血液・造血器疾患		消化器疾患	病態生理	検査	治療
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 血液・造血器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・貧血 ・白血病 ・悪性リンパ腫 ・多発性骨髄腫 ・播種性血管内凝固症候群 ②主な検査 ・末梢血検査 ・骨髄検査 ・リンパ節生検		講義
	2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 消化器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・食道の疾患 (食道癌) ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸および腹膜疾患：潰瘍性大腸炎 クロウン病、腹膜炎 ・ヘルニア ・イレウス ・腸管ポリープ ・結腸癌・直腸癌 ・肛門疾患 ・肝臓・胆嚢・胆管の疾患 肝炎、肝硬変症、門脈圧亢進症、 肝癌、胆石症 ・膵臓の疾患：膵炎、膵癌 ②主な検査 ・肝機能検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・腹部超音波検査 ・肝生検		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論IV (腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)	担当講師	有村 哲朗 高橋 良樹 四元 文明
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 腎泌尿器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
腎泌尿器疾患 女性生殖器疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 腎泌尿器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 腎・泌尿器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・腎不全 急性腎不全、慢性腎不全 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ・尿路感染症 ・結石症 ・尿路の腫瘍 腎実質腫瘍 腎盂及び尿管腫瘍 膀胱腫瘍、尿道腫瘍 ・泌尿器の疾患 先天異常 前立腺肥大、前立腺癌 ②主な検査 ・尿検査 ・腎機能検査 ・造影検査 ・内視鏡検査		講義
	2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 女性生殖器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療含む) ・性分化疾患 ・膣炎 ・子宮がん ・子宮筋腫 ・子宮内膜症 ・卵巣腫瘍 ・月経異常 ・更年期障害 ・不妊症 ・不育症 ・性感染症 ・乳がん ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・頸管粘液検査 ・細胞診 ・ホルモン測定		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論V (脳神経疾患、内分泌疾患)	担当 講師	長谷川 浩史 北条 雅人 本田 亘
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
脳神経疾患 内分泌・代謝系疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 脳神経疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・脳血管障害 ・脳腫瘍 ・パーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 ・多発性硬化症 ・神経・筋疾患 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症 ②主な検査 ・画像検査 ・髄液検査 ・脳波 ・筋電図	講義	
	2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 内分泌・代謝系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・下垂体の疾患 先端肥大症 (巨人症) 下垂体機能低下症 下垂体性小人症、尿崩症 ・甲状腺機能亢進症 ・クッシング症候群 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・蛋白質代謝異常 ②主な検査 ・血液検査 (ホルモン血中濃度) ・尿検査 ・負荷試験	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論VI (感覚器疾患)	担当 講師	岸本 真人 堤 俊之 藤本 徳毅
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい		感覚器系疾患の病態生理、検査、治療について理解する。			
授業のキーワード		感覚器疾患 耳鼻咽喉疾患 眼疾患 皮膚疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 耳鼻咽喉疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 耳鼻咽喉疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・中耳炎、難聴、メニエール病 ・副鼻腔炎、鼻炎 ・上顎癌 ・喉頭癌 ・口唇裂、口蓋裂 ②主な検査 ・聴力検査 ・平衡機能検査 ・内視鏡検査 ・画像検査	講義	
	2. 眼疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。	(1) 眼疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・結膜炎、屈折異常 ・白内障、緑内障、網膜剥離 ・糖尿病性網膜症 ・斜視 ・眼瞼疾患 ②主な検査 ・視力・屈折・眼圧検査 ・眼底検査	講義	
	3. 皮膚疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。	(1) 皮膚疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・湿疹・皮膚炎、蕁麻疹 ・皮膚感染症 (一般細菌・真菌・ウイルス) ・腫瘍性疾患 ・膠原病 ・薬疹・中毒疹 ・熱傷 ・凍傷 ②主な検査 ・パッチテスト ・皮膚組織生検	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	公衆衛生学	担当講師	苗村 光廣
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 公衆衛生の概念を理解し、地域で生活するさまざまな人の健康維持・増進のために、我が国がどのような法制度に基づいて活動がなされているかを学ぶ。 2. 地域における保健活動の実際を学ぶ。					
授業のキーワード					
健康 生活 環境 制度 保健活動 公衆衛生					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 公衆衛生の概念を理解できる。	(1) 公衆衛生の理念	①公衆衛生とは ②ヘルスプロモーション ③権利とプライマリヘルスケア ④公衆衛生と国際化	講義	
	2. 生活者の健康増進のための法制度および保健活動について理解できる。	(1) 公衆衛生の技術	①疫学と健康指標 ②健康づくりを支援する新しい健康教育 ③集団とコミュニケーションを対象とした政策立案 ④活動計画と実践評価のプロセス	講義	
		(2) 地域保健	①母子保健 ②成人・老人保健 ③精神保健 ④歯科保健 ⑤感染症対策 ⑥難病支援・障害支援	講義	
		(3) 学校と健康	①学校保健	講義	
		(4) 職場と健康	①産業保健	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 医学書院 「国民衛生の動向」、厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	健康支援論	担当講師	大林 豊子
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい		人間にとっての健康の意味を理解し、健康を維持・増進するための能力を養う。			
授業のキーワード		健康 ライフスタイル 健康行動 生活習慣 QOL 環境 予防			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 健康を取り巻く現代社会の状況が理解できる。	(1) 現代社会の現状と健康支援	①社会構造の変化 ②疾病構造の変化 ③健康の価値観の多様化 ④ライフスタイルと生活環境の変化 ⑤健康支援 (支援される側の立場からの考え)	講義	
		(2) 健康支援の方向性	①疾病や障害予防 ②生活の場に根ざしたQOL ③保健、医療、看護の健康アプローチ 健康の阻害要因の除去と促進要因の高揚 ④個人・社会・環境へのアプローチ	講義	
		(3) 健康支援の取り組み	①個人の自己責任 ②セルフケア (自助) ③行政責任 (公助) ④個人と行政の責任 (共助)	講義	
	2. 健康のレベルを向上させる理論について理解できる。	(1) 健康支援に関するモデルと概念	①健康信念モデル ②エンパワメント ③セルフケア理論	講義	
		(2) 健康支援の実際	①事例を通して理論の理解 支援される立場からの視点	演習	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	リハビリテーション論	担当講師	中馬 孝容・川上 寿一 新里 修一
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 15 時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、QOLの向上を目指した支援に対する能力を養う。					
授業のキーワード					
リハビリテーション 障害分類 障害の評価 障害受容 QOL ノーマライゼーション					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. リハビリテーションの考え方が理解できる。	(1) リハビリテーションの定義	①リハビリテーションの考え方の変遷 ②リハビリテーションの定義		講義
		(2) リハビリテーションの目標	①目標としてのノーマライゼーション ②ノーマライゼーションの具体的要素		講義
		(3) リハビリテーションの分野	①医学的リハビリテーション ②職業的リハビリテーション ③教育的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション		講義
		(4) リハビリテーション医療システム	①リハビリテーションの流れ ②チーム医療としてのリハビリテーション		講義
	2. リハビリテーションにおける倫理と法的問題が理解できる。	(1) 障害の定義と動向	①障害の概念 ②障害者の定義 ③障害者に対する施策の変遷と基本理念 ④障害の分類と構造		講義
		(2) 障害の評価	①機能障害の評価 ②日常生活能力の評価 ③社会活動参加の評価 ④主観的障害（心理面）の評価		講義
	3. リハビリテーションを必要とする対象の特徴が理解できる。	(1) 運動器系の障害とリハビリテーション	①運動機能障害と日常生活動作 ②廃用性症候群		講義
		(2) 中枢神経系の障害とリハビリテーション	①脳血管障害のリハビリテーション ②高次脳機能障害のリハビリテーション ③脊髄損傷のリハビリテーション		講義
		(3) 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション	①呼吸器リハビリテーション ②虚血性心疾患のリハビリテーション		講義
		(4) 感覚器系の障害とリハビリテーション	① 視覚障害、聴覚障害		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	社会保障制度	担当講師	川口 啓子
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい		社会保障の理念を理解し、社会の中で生活する人の生活問題に対する法律、政策を学ぶ。			
授業のキーワード		憲法 人権 生活者 生活問題 社会保障 社会福祉			
	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 社会保障の理念と基本的な制度が理解できる。	(1) 社会保障の概念	①社会保障の理念 ②社会保障の目的 ③社会保障の機能 ④社会保障の体系	講義	
		(2) 我が国の社会保障制度	①社会保障制度の動向 ②医療保障制度 ③介護保障制度（介護保険制度） ④所得保障（所得保障制度・年金保険制度・労働保険制度） ⑤社会福祉行政のしくみ 社会福祉と医療・看護との連携 社会保障、社会福祉からみた連携をめぐる課題	講義	
	2. 社会福祉の理念と、生活者としての問題に対する政策が理解できる。	(1) 社会福祉とは	①社会福祉の考え方 ②社会福祉の動向 ③社会福祉法	講義	
		(2) 現代社会の変化	①人口の変化 ②地域社会の変化 ③家族・個人の変化 ④経済状況の変化 ⑤雇用状況の変化	講義	
		(3) 社会福祉の諸制度と施策	①老人福祉法 ②障害者基本法 障害者総合支援法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法 ③母子及び父子並びに寡婦福祉法 児童福祉法 ④生活保護法	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉」 医学書院 「福祉小六法」 中央法規			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	総合医療論	担当講師	一山 智 谷口 泰弘
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい		医療の現状と課題を学び、看護師の果たすべき役割を理解する。			
授業のキーワード		生命 健康 医療の歴史 医療システム 医療の現状 倫理 医療の動向 地域医療			
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 医療・看護の原点が理解できる。	(1) 生命と健康 (2) 病気 (3) 医療の考え方	①生命現象と死 ②健康とは ①生活と病気 ①医療的ケア		講義 講義 講義
	2. 医療の歴史と医療観の変遷が理解できる。	(1) 医療の歴史	①現代医療の起源 ②20世紀の医療 ③医療観の移り変わり		講義
	3. 現代日本の医療システムが理解できる。	(1) 生活と医療との関連	①日本の保険医療のしくみ ②生活と環境衛生、保健・福祉行政 ③疾病の一次予防と生活習慣病 ④障害者プラン ⑤こころの健康と精神医療		講義
	4. 医療技術の進歩の成果と課題について理解できる。	(1) 先端医療技術と課題	①現代医療技術の成果と影響 ②産業社会の発展と健康への影響		講義
	5. 医療に対する人々の意識変革について理解できる。	(1) 医療体制と人々の意識	①日本の医療供給体制 ②人々の意識 ③インフォームドコンセントの法理 ④医療情報の開示と診療録		講義
	6. 医療をめぐる新たな視点が理解できる。	(1) 医療の論理 (2) 医療の倫理 (3) 医療の管理	①人々の受療行動 ①生命倫理学 ①医療の質 ②医療の技術評価		講義 講義 講義
	7. 今後の医療のあり方と医療者に必要な資質が理解できる。	(1) 保健医療の動向と医療者の資質	①保健・医療の新しい動向 ②医療者-患者関係の未来像と求められる資質 ③チーム医療・チームケア ④プライマリーケアの将来像 ⑤医療におけるケアの視点 ⑥地域包括支援システムの展開 ⑦保健・医療システムと住民の役割		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕総合医療論」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	関係法規	担当講師	溝口 孝子
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 保健師助産師看護師法を中心に、看護職を取り巻く法的背景を理解する。 2. 関係法規を学ぶことにより、看護職の責任と役割を理解する。					
授業のキーワード					
医事法 保健師助産師看護師法 医療法 責任と役割					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 法に関する基礎的知識と、関係法令の基本となる法を理解できる。	(1)法の概念	①看護業務を規定する法と倫理 ②看護者の責務と倫理 ③法の概念 ④医療職のための法規 ⑤厚生労働行政のしくみ	講義	
	2. 看護活動に直接的・間接的に関連する法規が理解できる。	(1)保健師助産師看護師法の歴史的変遷	①保健師助産師看護師法の構造 ②保健師助産師看護師の定義 ③免許・籍の登録・国家試験 ④保健師助産師看護師法の変遷	講義	
		(2)看護に関連する法規	①看護師等の人材確保の促進に関する法律と就職 ②看護師を巡る新しい動き 医療事故、行政処分 ③医師法 ④医療法 ⑤保健衛生法 ⑥薬務法 ⑦社会保険法 ⑧福祉法 ⑨労働法 ⑩個人情報保護に関する法律	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令」 医学書院 「看護六法」 新日本法規 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験100%			

3. 専 門 分 野 I

授 業 科 目		単 位	時 間
基礎看護学	基礎看護学概論	1	30
	共通基本技術Ⅰ (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15
	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタル・感染予防)	1	30
	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	2	45
	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	1	30
	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	1	30
	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	1	30
	診療に伴う技術Ⅰ (診療の補助技術)	1	30
	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	1	30
	臨床看護総論	1	30
(臨地実習)	フィジカルアセスメント	1	30
	基礎看護学実習Ⅰ (療養生活の理解)	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)	2	90
合 計		15	465

分野	専門分野 I	授業科目名	基礎看護学概論	担当講師	中川 牧子
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
1. 看護の基本となる概念を理解する。 2. 看護職者を取り巻く環境、及び専門職者としての責任と義務について理解する。 3. 看護の歴史をふまえ、近代理論家の看護を理解する。					
授業のキーワード					
人間 健康 環境 (生活) 看護 看護理論 看護史 保健・医療・福祉サービス 専門職					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1.看護とは何かが理解できる。	(1)看護の概念	①看護とは ②看護の定義 ③看護の役割と機能 ④看護実践に求められる倫理		講義
	2.近代看護の歴史が理解できる。	(1)職業としての看護の歴史	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の新たな展開		講義
	3.看護の対象としての人間が理解できる。	(1)統合体としての人間	①生物体・心理社会的存在としての人間 ②ライフコースと人間 ③人間の欲求と行動		講義
		(2)環境と人間	①環境とは ②人に影響を及ぼす環境要因 ③個人・家族・コミュニティ・地域社会		講義
	4.健康について理解できる。	(1)健康の概念	①健康とは ②健康の定義 ・WHOの定義 ・ヘルスプロモーション ・障害の定義 ③人間の健康に影響する要因		講義
		(2)健康に関する統計	①人々の生活と健康を示す統計 ・出生から死亡に関する統計		講義
	5.専門職としての看護職者について理解できる。	(1)専門職としての看護	①専門職とは ②看護の専門職化 ・法的な規定		講義
		(2)看護職の養成制度	①看護職の養成制度と就業状況 ②看護基礎教育 ③継続教育 ・専門看護師 ・認定看護師・ ・認定看護管理者 ・特定行為にかかる看護師の研修制度		講義

	<p>6.看護を取り巻く保健医療福祉サービスが理解できる。</p>	<p>(1)保健・医療・福祉サービスにおける看護</p> <p>(2)保健・医療・福祉の提供システム</p>	<p>④看護職者の養成制度の課題</p> <p>①保健、医療、福祉とは</p> <p>②保健・医療・福祉サービスにおける理念</p> <p>③保健・医療・福祉における看護</p> <p>①保健・医療・福祉サービスのシステム</p> <p>②保健・医療・福祉サービスを構成する専門職とその役割</p> <p>③看護の提供の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設における看護 ・福祉施設における看護 ・地域における看護 <p>④保健・医療・福祉の連携と協働とチームワーク</p>	<p>講義</p> <p>講義</p>
	<p>7.看護実践のための理論が理解できる。</p>	<p>(1)看護理論</p> <p>(2)近代看護理論家の理論</p>	<p>①看護理論とは</p> <p>②看護理論の分類</p> <p>③看護理論の変遷</p> <p>①フローレンス・ナイチンゲール</p> <p>②ヴァージニア・ヘンダーソン</p> <p>③アイダ・ジーン・オーランド</p> <p>④アーネスティン・ウィーデンバッグ</p> <p>⑤ジーン・ワトソン</p> <p>⑥ドロセア・オレム</p> <p>⑦ジョイス・トラベルビー</p> <p>⑧カリスタ・ロイ</p> <p>⑨パトリシア・ベナー</p> <p>⑩ヒルデガード・ペプロウ</p>	<p>講義</p> <p>講義 演習</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院</p> <p>「看護覚え書き」 現代社</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>			

分野	専門分野 I	授業科目名	共通基本技術 I (技術の概念・人間関係成立の技術)	担当講師	加藤 紗香
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
看護における共通基本技術を学び、看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
看護技術 個人情報		看護記録	人間関係	コミュニケーション	
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1.看護技術の概念とその重要性が理解できる。	(1)技術 (2)看護技術	①技術の定義 ②技術の本質 ①看護技術の定義 ②看護技術の特徴 ③看護技術の原則 安全性・安楽性・自立性・経済性 ④看護技術の構成		講義 講義
	2 記録の目的と管理が理解できる。	(1)診療情報と看護記録	①診療情報とは ②看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ③看護記録の目的と意義 ④看護記録の構成 ・基礎情報 (プロフィールを含む) ・看護計画 ・経過記録 (フローシートを含む) ・看護サマリー		講義
		(2)診療情報および記録の取り扱い	①記録における個人情報 ②記録の媒体 ③記録の留意事項と管理 ・記録の開示 ④看護学生の臨地実習における情報と記録の管理		講義
	3.看護における人間関係の重要性を理解し、その成立のための技法が習得できる。	(1)看護における人間関係 (2)コミュニケーション	①人間関係と看護 ②相互信頼関係の構築 ①コミュニケーションの基本概念 ②コミュニケーションの基本構造 ③コミュニケーションの種類と概要 ・言語的・非言語的コミュニケーション ・コミュニケーションの技法 ④コミュニケーションに影響する因子 ⑤コミュニケーション過程の分析と活用 ロールプレイを用いる方法 プロセスレコードを用いる方法		講義 講義 演習
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタル・感染予防)	担当講師	加藤 紗香 唐島田 順 織田 麻希
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
看護における共通基本技術を学び、看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
環境 バイタルサイン 感染予防 標準予防策					
時間	目 標	主 題	内 容		指導方法
	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。	(1) 健康と生活環境	①環境とは ②環境因子 ③環境調整の意義 ④望ましい環境条件 光 音 室内気候 臭い 空気 プライバシー 色彩		講義
		(2) 健康障害のある人と生活環境	①入院生活の場における構造・設備・システム 病院・病棟・病室・病床 ②入院生活の場において求められる環境 ・入院生活を安全におくるための環境 ・入院生活を安楽におくるための環境 ・医療者が治療・検査・看護を効果的・効率的に行うための環境 ③環境因子としての看護師		講義
		(3) 入院生活の場における環境整備	①環境整備の目的 ②環境整備における看護師の役割 ③環境整備の視点 ④病床環境の整備 ＜環境整備＞ 《ベッドメイキング》		講義 演習
	2. バイタルサインの測定技術が習得できる。	(1) バイタルサインの測定	①バイタルサインとは ②体温測定 ③脈拍測定 ④呼吸測定 ⑤経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ⑥血圧測定 (アネロイド血圧計・電子血圧計) 《バイタルサイン測定》		講義 演習
		(1) 医療関連感染	①感染・感染症とは ②医療関連感染とは ③感染の成立と経路		講義
	3. 感染予防の技術が習得できる。	(2) 感染予防	①感染予防の目的 ②感染予防の方法 標準予防策(スタンダード・プリコーション) ③感染経路別予防策 ④洗浄・消毒・滅菌 消毒液の希釈法 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥針刺し防止策		講義

	(3) 感染予防の実際	①手指衛生 ②エプロン・マスクの着脱 ③無菌操作 ・滅菌物の取り扱い ≪衛生的な手洗い・滅菌物の取り扱い 滅菌手袋の着脱・防護用具の着脱≫	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版		
成績評価の方法	技術試験 30% 筆記試験 70%		

分野	専門分野 I	授業 科目名	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	担 当 講 師	唐島田 順 平野 まゆみ
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	2単位 45時間	実 務 経 験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		看護における問題解決過程を学び、看護が取り扱うべき問題を判断し介入するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		看護過程 ゴードンの機能的健康パターン NANDA-I看護診断			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護過程が理解できる。	(1) 看護過程とは	①看護過程の定義 ②看護過程の意義 ③看護過程の構成要素 ④看護過程と記録 ⑤看護過程を展開するために必要な能力	講義	
		(2) アセスメント (情報収集)	①情報源・情報収集の手段・情報の種類 ②情報収集における倫理的配慮 ③プロフィール ④アセスメント(情報収集)の方法 データベースアセスメント 焦点アセスメント ⑤看護診断のためのアセスメントツール ・ゴードンの機能的健康パターン 健康知覚/健康管理パターン 栄養/代謝パターン 排泄パターン 活動/運動パターン 睡眠/休息パターン 認知/知覚パターン 自己知覚/自己概念パターン 役割/関係パターン セクシュアリティ/生殖パターン コーピング/ストレス耐性パターン 価値/信念パターン	講義 演習	
		(3) アセスメント (情報分析)	①情報の整理 ②分析 ③統合 ④照合	講義 演習	
		(4) 問題の明確化	①看護診断 ②看護援助(ケア) ③共同問題 ④優先順位の決定	講義	

	(5)計画	①目標の設定 a) 看護診断における目標設定 b) 共同問題における目標設定 ②看護問題における援助の目的 ③具体策の立案 a) 具体策立案時の留意点 b) 具体策の考え方 c) クリティカルパス 標準看護計画 (SCP)	講義
	(6)実施	①対象者の状態の確認 ②対象者への説明と同意 ③実施 ④報告 ⑤日々の看護の評価	講義
	(7)評価	①評価の時期 ②評価の方法	講義
	(8)対象者の全体像 (関連図)	①関連図とは ②関連図作成の目的 ③関連図の作成方法	講義
	(9)事例による看護過程 の展開	老年期にある肺炎の対象の事例	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 「治療薬マニュアル」 医学書院 「臨床検査データブック」 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野 I	授業科目名	日常生活援助技術 I (運動・休息)	担当講師	中川 美千代
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		運動と休息の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		ボディメカニクス 体位 移動 移乗 移送 活動 運動 運動機能 休息 睡眠 リラクゼーション			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 看護におけるボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクス	①ボディメカニクスとは ②看護におけるボディメカニクスの意義 ③ボディメカニクスの原則	講義	
	2. 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送に関する技術を習得できる。	(1) 安楽な体位 (2) 体位変換の援助 (3) 移動・移乗・移送の援助 (4) 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送の援助の実際	①体位の種類・特徴 ②体位による影響 ③安楽な体位の保持 ①体位変換とは ②体位変換の目的・方法・留意点 ①移動・移乗・移送とは ②歩行・移乗・移送の援助における目的・方法・留意点 《安楽な体位の保持 体位変換》 《車いす・ストレッチャーへの移乗》 《車いす・ストレッチャーの移送》 《歩行介助》	講義 講義 講義 演習	
	3. 活動・運動について理解することができる。	(1) 活動 (2) 運動	①活動とは ②生活における活動の区分 ・ 1次活動・2次活動・3次活動 ③日常生活動作 (ADL) と手段的日常生活動作 (IADL) ④活動の意義 ①運動とは ②運動機能の観察点 a) 動作 b) 姿勢 c) 筋系 d) 骨格系 e) 関節可動域 《筋力の測定・関節可動域の測定》	講義 講義	
	4. 休息・睡眠について理解することができる。	(1) 休息・睡眠 (2) 休息・睡眠に関する援助 (3) リラクゼーションを促す援助	①休息・睡眠とは ②休息・睡眠の意義 ③休息・睡眠に影響する要因 ①休息・睡眠における看護師の役割 ②休息・睡眠に関する観察点 ③休息・睡眠に関する援助 ①リラクゼーションとは ②リラクゼーションを促す援助 傾聴 タッチング マッサージ 呼吸法 筋弛緩法 指圧 音楽療法 アロマセラピー 電法	演習 講義 講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野 I	授業科目名	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	担当講師	齋藤 就美 中川 美千代
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		清潔・衣生活の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		清潔 衣生活			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 日常生活における清潔行動を理解し、清潔に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における身体の清潔とは	①日常生活における身体の清潔 入浴・整容 ②身体の清潔（入浴・整容）の意義 ③身体の清潔（入浴・整容）に影響する要因	講義	
		(2) 清潔の援助	①清潔（入浴・整容）の援助における看護師の役割 ②清潔の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ③入浴の援助における目的・方法・留意点 入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄	講義	
		(3) 清潔の援助の実際	④整容の援助における目的・方法・留意点 整髪・髭剃り・洗面・爪切り・耳のケア・鼻のケア・口腔ケア 《全身清拭》 《洗髪》 《手浴・足浴・陰部洗浄》 《口腔ケア》	演習	
	2. 日常における衣生活を理解し、衣生活に関する技術が習得できる。	(1) 衣生活とは	①衣服を用いることの意義 ②衣生活に影響する要因	講義	
		(2) 衣生活の援助	①衣生活への援助における看護師の役割 ②療養生活における衣類の選択 ③衣生活の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ④衣生活の援助における目的・方法・留意点 寝衣交換	講義	
		(3) 衣生活の援助の実際	《寝衣交換》 《寝衣・リネン交換》	演習	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野 I	授業 科目名	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	担 当 講 師	中島 彰子 片木 美和子
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		食生活と排泄の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		食生活 排泄			
時間	目 標	主 題	内 容	指 導 方 法	
	1.日常生活における「食」を理解し、食生活に関する技術が習得できる。	(1)日常生活における「食」とは	①日常生活における「食」 食事内容 食事行動 ②日常生活における「食」の意義 ③日常生活における「食」に影響する要因	講義	
		(2)食生活の援助	①食生活の援助における看護師の役割 ②栄養サポートチーム ③食生活に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ④食事内容における援助 <食事介助> ⑤食事行動における援助の目的・方法・留意点 食事介助	講義 演習 講義	
	2.日常生活における排泄を理解し、排泄に関する技術が習得できる。	(1)日常生活における「排泄」とは	①日常生活における「排泄」 ②日常生活における「排泄」の意義 ③日常生活における「排泄」に影響する要因	講義	
		(2)排泄の援助	①排泄の援助における看護師の役割 ②排泄に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ③排泄行動の援助における目的・方法・留意点 ・トイレにおける排泄の援助 ・ポータブルトイレでの排泄の援助 ・床上での排泄の援助 ④自然排泄を促す援助 ・自然排便を促す援助 ・自然排尿を促す援助	講義	

		(3)排泄の援助の実際	⑤排泄障害の援助における目的・方法・留意点 ・浣腸 ・導尿（一時的・持続的導尿） ≪ポータブルトイレでの援助≫ ≪便器の使い方・尿器の使い方≫ ≪グリセリン浣腸≫ ≪導尿≫	講義 演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 「看護過程に沿った対症看護 第4版」 学研 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	担当講師	片木 美和子 十川 優花
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		診療に伴う看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		診療 診察 検査 与薬 輸血 身体計測 包帯法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 診療における看護の役割が理解できる。	(1) 診療における看護の役割	① 診療とは ② 診療のプロセス ③ 診療における看護師の役割	講義	
		(2) 身体計測	① 身体計測の目的 ② 身体各部の計測 身長・体重・胸囲・腹囲	講義	
		(3) 包帯法	① 包帯とは ② 包帯の目的 ③ 包帯使用時の原則と注意点 ④ 包帯の種類と巻き方 ＜包帯法＞	講義	
	2. 診察における看護師の役割が理解できる。	(1) 診察とは	① 診察とは ② 診察の目的 ③ 診察方法	演習 講義	
		(2) 診察における看護師の役割	① 安全・安楽に診察を受けるための援助 ② 円滑に診察を進めるための援助	講義	
	3. 検査における看護師の役割を理解し、採血の技術が習得できる。	(1) 検査とは	① 検査とは ② 検査の目的	講義	
		(2) 検査の種類	① 生体検査 ② 検体検査	講義	
		(3) 検査における看護師の役割	① 生体検査時の看護 X線・CT・MRI・超音波検査 ② 検体検査時の看護 検体の取り扱い：血液・尿・便・喀痰 ③ 検査における看護師の役割	講義	
		(4) 静脈血採血の実際	① 静脈血採血の部位 ② 静脈血採血の方法 ＜真空管採血＞ ＜注射器採血＞	講義	
	4. 薬物療法における看護師の役割を理解し、与薬に関する技術を習得できる。	(1) 薬物療法における看護師の役割	① 薬物療法とは ② 薬物の種類と吸収・排泄の機序 ③ 薬物療法における看護師の役割 正しい与薬 観察 薬物管理 (毒薬・劇薬・麻薬)	演習 講義	
		(2) 与薬方法と看護	④ 与薬に伴う事故と安全対策 ① 経口与薬法 ② 直腸内与薬法 (坐薬) ③ 経皮的与薬法 ④ 点眼・点鼻・点耳法 ⑤ 吸入法 ⑥ 注射法 (皮内注射・皮下注射・筋肉注射・ 静脈内注射・点滴静脈内注射・中心静脈 カテーテル法)	講義	

	<p>5.輸血療法における看護師の役割を理解できる。</p>	<p>(3) 与薬の実際</p> <p>(1) 輸血とは</p> <p>(2) 輸血時の看護</p>	<p>《皮下注射・筋肉注射》 《静脈内注射・点滴静脈内注射》 <直腸内与薬></p> <p>①輸血とは ②輸血の目的 ③血液製剤の種類と保管 ④輸血の副作用 ⑤輸血前に必要な検査</p> <p>①輸血前の看護 ②輸血中の看護 ③輸血後の看護 ④輸血に伴う事故と安全対策</p>	<p>演習 演習 演習 講義</p> <p>講義</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験100%</p>			

分野	専門分野 I	授業科目名	診療に伴う技術 II (治療時の看護)	担当 講師	平野 まゆみ 佐々木 光隆 森井 淳夫
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
治療に伴う看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
集中治療 手術療法 麻酔 ME機器					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 手術療法を受ける 対象の看護が理解 できる。	(1) 手術療法とは (2) 麻酔 (3) 手術・麻酔が人間に 及ぼす影響 (4) 手術前の看護	①手術療法とは ②手術療法の変遷 ①麻酔とは ②麻酔の種類と作用 ・全身麻酔 (吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔 (硬膜外麻酔・腰椎麻酔・伝達麻酔) ①侵襲とは ②手術・麻酔が各適応様式に及ぼす影響 ①術前看護の目標 ②術後に順調な回復過程をたどるための準備 ・身体の準備 ・精神的準備 ・術後環境の準備 ③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術前の標 準看護計画		講義 講義 講義 講義
	2. 集中治療を受ける 対象の看護が理解 できる。	(5) 手術中の看護 (6) 手術後の看護	①手術室の構造と設備 ②術中看護の目標 ③手術室入室から退室まで ④手術室看護師の役割 ①術後看護の目標 ②術後の身体的・精神的変化に基づいた看護 ・術直後から麻酔覚醒まで ・麻酔覚醒から創傷治癒修復まで ③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術後の標 準看護計画 ④社会復帰への援助		講義 講義
	3. 医療機器の原理と 取り扱い方が理解 できる。	(1) 医療機器の原理 (2) 医療機器の取り扱い 方と操作	①集中治療とは ②集中治療を受ける環境 ①集中治療を受ける対象の特徴 ②集中治療を受ける家族の特徴 ③集中治療を受ける対象への看護 ①ME機器とは ②ME機器使用のための基礎知識 ③ME機器取り扱い上の留意事項 ①医療機器の取り扱い方と操作の実際 <心電計 人工呼吸器 輸液ポンプ ベッドサイドモニター シリンジポンプ>		講義 講義 演習
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院 「高齢者と成人の周手術期看護」 医歯薬出版株式会社 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	臨床看護総論	担当講師	大西 孝子 佐野 寛恵 寺澤 律子 小崎 信子
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 疾病の経過をふまえた看護を実践するための基礎的能力を養う。 2. 症状・治療・検査をふまえた看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
経過別看護 内視鏡		痛み 核医学検査	呼吸障害 穿刺	意識障害 ドレナージ	血管造影 放射線療法
1. 疾病の経過をふまえた看護が理解できる。	(1) 疾病の経過をふまえた看護とは	① 疾病の経過とは ② 疾病に基づく「期」 ③ 疾病の経過をふまえた看護の意義	講義		
	(2) 急性期の対象の看護	① 急性期とは ② 急性期にある対象の特徴 ③ 急性期にある対象の看護	講義		
	(3) 回復期の対象の看護	① 回復期とは ② 回復期にある対象の特徴 ③ 回復期にある対象の看護	講義		
	(4) 慢性期の対象の看護	① 慢性期とは ② 慢性期にある対象の特徴 ③ 慢性期にある対象の看護	講義		
	(5) 終末期の対象の看護	① 終末期とは ② 終末期にある対象の特徴 ③ 終末期にある対象の看護	講義		
2. 主要症状〔疼痛・呼吸障害・意識障害〕を示す対象の看護が理解できる。	(1) 症状をふまえた看護とは	① 症状とは ② 症状をふまえた看護の意義	講義		
	(2) 痛みのある対象の看護	① 痛みとは ② 痛みがある対象のアセスメント ③ 痛みがある対象の看護	講義		
	(3) 呼吸障害のある対象の看護	① 呼吸障害とは ② 呼吸障害がある対象のアセスメント ③ 呼吸障害がある対象の看護 ④ 酸素療法を受ける対象の看護 ＜酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い＞ ⑤ 気道浄化のための看護 ＜吸入＞	講義 演習 講義 演習 講義		
	(4) 意識障害のある対象の看護	① 意識障害とは ② 意識障害がある対象のアセスメント ③ 意識障害がある対象の看護	講義		
3. 特殊な検査をうける対象の看護が理解できる。	(1) 血管造影をうける対象の看護	① 血管造影の目的・適応・種類 ② 血管造影をうける対象の看護	講義		
	(2) 内視鏡をうける対象の看護	① 内視鏡の目的・適応・種類 ② 内視鏡をうける対象の看護	講義		
	(3) 核医学検査をうける対象の看護	① 核医学検査の目的・適応・種類 ② 核医学検査をうける対象の看護	講義		
	(4) 穿刺をうける対象の看護	① 穿刺の目的・適応・種類 ② 穿刺をうける対象の看護	講義		

	4. 特殊な治療をうける対象の看護が理解できる。	(1) ドレナージをうける対象の看護 (2) 放射線療法をうける対象の看護	① ドレナージの目的・適応・種類 ② ドレナージをうける対象の看護 ① 放射線療法とは ② 放射線防護の三原則 ③ 放射線療法の副作用 ④ 放射線治療をうける対象の看護	講義 講義
テキスト・参考文献	「新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論」 メヂカルフレンド社 「臨床看護学叢書 経過別看護 第2版」 メヂカルフレンド社 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護 第4版」 学研 「系統看護学講座 成人看護学〔1〕 成人看護学総論」 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	フィジカルアセスメント	担当講師	寺本 美智代 片木 美和子 田原 恵 梨木 由美子
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
身体のアセスメントを実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
フィジカルアセスメント フィジカルイグザム					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1.フィジカルアセスメントの意義が理解できる。	(1) フィジカルアセスメントの意義	①フィジカルアセスメントとは ②看護過程とフィジカルアセスメントの関連 ③系統別アセスメントと症状別アセスメント	講義	
	2.フィジカルイグザムが理解できる。	(1) スクリーニング (2) フィジカルイグザムの方法	①基本情報の聞き取り ②一般状態の観察 ①視診 ②触診 ③聴診 ④打診	講義 講義	
	3.系統別アセスメントが習得できる。	(3) フィジカルアセスメントの準備 (1) 頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメント (2) 胸部 (肺・胸郭) のフィジカルアセスメント (3) 胸部 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメント (4) 腹部のフィジカルアセスメント (5) 神経系のフィジカルアセスメント	①環境整備 ②必要物品 ③患者の準備 ①頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメントのポイント ②頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ①胸部 (肺・胸郭) のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部 (肺・胸郭) のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③<<胸部 (肺・胸郭) のフィジカルイグザムの実際>> ①胸部 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部 (心臓・血管系) のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③<<胸部 (心臓・血管系) のフィジカルイグザムの実際>> ①腹部のフィジカルアセスメントのポイント ②腹部のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③<<腹部のフィジカルイグザムの実際>> ①神経系のフィジカルアセスメントのポイント ②神経系のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③<<神経系のフィジカルイグザムの実際>>	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習	
テキスト・参考文献	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院				
成績評価の方法	技術試験 20% 筆記試験 80%				

実習名 基礎看護学実習 I (療養生活の理解)

時期	1年 前期
単位(時間)	1単位(45時間)

目的：病院での療養生活を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標	行 動 目 標
1. 「入院生活の場」について理解できる。	1. 入院生活を安全におくるための配慮や工夫、その意味について述べることができる。 2. 入院生活を安楽におくるための配慮や工夫、その意味について述べることができる。 3. 医療者が「治療・検査・看護」を「効果的・効率的」に行うための工夫、その意味について述べるができる。
2. 「入院生活」について理解できる。	1. 対象者の「入院前の生活」について、述べるができる。 2. 対象者の「入院生活」について、述べるができる。 3. 「入院前の生活」と「入院生活」について、対象者の反応を述べるができる。
3. 人間関係を成立させるための行動がとれる。	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。
4. 実習を通して看護師を目指す自己について考えることができる。	1. 対象者との関わりを通して「看護師を目指すものとしての自己について」学んだことを述べるができる。

実習名 基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)

時期	1年 後期
単位(時間)	2単位(90時間)

目的：看護の対象者を理解し、対象者に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標	行 動 目 標
1. 対象者の情報を収集することができる。	1. 対象者の看護プロフィールを述べることができる。 2. 各機能的健康パターンに必要な対象者の情報を述べることができる。 3. 対象者の情報について逸脱しているものを述べるができる。
2. 対象者に学内で学んだ看護の技術を活用して援助ができる。	1. 対象者に実施する援助の目的を述べるができる。 2. 対象者に応じた援助方法を述べるができる。 3. 実施前に対象者の状況を確認することができる。 4. 実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 5. 事前に考えた方法で、実施することができる。 6. 実施した援助について評価することができる。 7. 報告することができる。
3. 人間関係を成立させるための行動ができる。	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。 2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。

4. 専 門 分 野 Ⅱ

授 業 科 目		単 位	時 間
成人看護学 (臨地実習)	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論Ⅰ(急性期にある対象の看護)	2	45
	成人看護学援助論Ⅱ(回復期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ(慢性期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学援助論Ⅳ(終末期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学実習Ⅰ(成人期の特徴をふまえた看護)	2	90
	成人看護学実習Ⅱ(急性期・回復期の看護)	2	90
	成人看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期の看護)	2	90
小 計	12	435	
老年看護学 (臨地実習)	高齢者看護学概論Ⅰ(老年期、加齢の概念)	1	15
	高齢者看護学概論Ⅱ(高齢者と社会)	1	15
	高齢者看護学援助論Ⅰ(日常生活援助と終末期看護)	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅱ(治療処置別、症状別看護)	1	30
	高齢者看護学実習Ⅰ(高齢者の理解)	1	45
	高齢者看護学実習Ⅱ(高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135
	小 計	8	270
小児看護学 (臨地実習)	小児看護学概論Ⅰ(小児看護の役割)	1	15
	小児看護学概論Ⅱ(小児の成長と発達)	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ(疾患の理解と症状別看護)	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ(健康の段階、発達段階に応じた看護)	1	30
	小児看護学実習	2	90
	小 計	6	195
母性看護学 (臨地実習)	母性看護概論	1	15
	母性看護学援助論Ⅰ(母性のライフサイクルと看護)	1	30
	母性看護学援助論Ⅱ(妊娠期、分娩期の看護)	1	30
	母性看護学援助論Ⅲ(産褥期、新生児期の看護)	1	30
	母性看護学実習	2	90
	小 計	6	195
精神看護学 (臨地実習)	精神看護学概論Ⅰ(精神看護の基本概念と精神の健康支援)	1	30
	精神看護学概論Ⅱ(精神保健福祉活動の動向)	1	15
	精神看護学援助論Ⅰ(精神疾患の理解と精神看護の特徴)	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ(疾病の経過に応じた看護)	1	30
	精神看護学実習	2	90
	小 計	6	195
合計	38	1290	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学概論	担当講師	北村 幸恵 福井 美代子
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
成人期の健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
成人 アイデンティティの確立 仕事 家族 アンドラゴジー 生活習慣 ストレス 危機理論 保健・医療・福祉システム ヘルスプロモーション					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 成人期の対象の特徴が理解できる。	(1) 生涯発達の視点からみた成人期	①青年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達 ②壮年期・中年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達	講義	
		(2) 成人の生活	①家族の中で成人の果たす役割 ②人として働くことの意味 ③働く成人の生活 ④成人の健康行動	講義	
		(3) 成人をめぐる衛生統計の概要	①人口と平均寿命 ②死因・死亡率 ③受療率	講義	
		(4) 成人の健康な生活を脅かす要因と健康問題	①就労や労働形態の変化がもたらす健康問題 ②生活習慣がもたらす健康問題 a) 飲酒 b) 喫煙 c) 運動不足 d) 肥満	講義	
	2. 成人看護に必要な基礎理論が理解できる。	(1) ストレス	① 成人の生活ストレス ② ストレスコーピング	講義	
		(2) 危機理論	①危機の定義 ②危機状態の特徴 ③危機モデル アギュララとメズイックのモデル フィンクのモデル ④危機への働きかけ a) 危機介入の原則 b) フィンクの危機モデルを活用した介入	講義	

		(3) 学習に基づく行動形成	①行動の成立 ②行動の動機 ③観察学習	講義
		(4) 成人教育理論 (アンドラゴジー)	①アンドラゴジーの定義 ②アンドラゴジーにおける成人の特徴 ③アンドラゴジーモデルにおける 学習プログラムの要素	講義
3. 成人看護の特徴が 理解できる。		(1) ヘルスプロモーション	①健康増進への主体性を高めるための 支援 ②健康生活の具体的な支援 a) 食生活 b) 運動 c) 休養 d) ストレスマネジメント	講義 演習
		(2) 健康問題を持つ対象の 看護	①倫理的判断 ②意思決定支援	講義
4. 成人期における保 健医療福祉システ ムが理解できる。		(1) 保健に関わる対策と実 際	①健康増進・生活習慣病対策 ②健康危機管理 ③感染症対策 ④高齢者の医療の確保に関する法律に 伴う保健事業	講義
		(2) 医療にかかわる対策	①医療法の改正に伴う施策の変遷 ②難病対策	講義
		(3) 福祉にかかわる対策	①障害者福祉 ②高齢者福祉	講義
		(4) 保健・医療・福祉の連携 と実際	①生涯発達・健康状態からみた保健・医 療・福祉システムの提供と実際 ②保健・医療・福祉システムの重要性	講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅰ (急性期にある対象の看護)	担当講師	勝間 玲蘭 内田 善子 松本 修一
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	2単位 45時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
急性期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
急性期 周手術期 生命の危機 苦痛 不安・恐怖 家族の不安 急性期の看護技術					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 急性期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1)急性期にある成人期の対象の特徴	①身体面への影響 a) 生命の危機 b) 身体の苦痛 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面への影響 a) 社会的役割への葛藤 b) 不安 c) 家族の不安		講義
		(2)急性期にある成人期の対象の看護	①症状の観察と救命 ②苦痛の軽減 ③不安・恐怖の軽減 ④セルフケアの援助 ⑤家族への援助		講義
		(3)循環器系で急性期にある成人期の対象の事例展開	①急性心筋梗塞で中年期にある対象(男性)の事例展開		講義 演習
		(4)心臓リハビリテーションを受ける対象の看護	①心臓リハビリテーションの目的 ②心臓リハビリテーションの実際と看護		講義
		(5)周手術期にある成人期の対象の看護	①全身麻酔のSCPをもとに肺癌で肺切除術を受ける対象の計画立案 ・術前 ・術直後 ・術後		講義
	2. 急性期にある成人期の対象の看護に必要な技術を習得できる。	(1)急性期看護に必要な援助技術	①胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置の目的 ②胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置中の看護、ドレーン管理(デモンストレーション等) 〈創傷処置〉 ③排痰の援助 〈吸引(口腔・鼻腔・気管内)〉 〈体位ドレナージ〉 ④〈簡易血糖測定〉 ⑤〈輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換〉		講義 演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学 [2]呼吸器、[3]循環器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [1]成人看護学総論」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術」 照林社 「看護過程に沿った対症看護」 学研 NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅱ (回復期にある対象の看護)	担当講師	内田 善子 奥田 美幸
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経歴	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
回復期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
回復期 機能回復 合併症・二次的障害の予防 障害受容 ライフスタイルの変更 生活の再構築					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 回復期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1)回復期にある成人期の対象の特徴	①身体面への影響 a) 身体機能の低下 b) 合併症・二次的障害の出現 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面への影響 a) 回復に向けての不安 b) ボディイメージの変容 c) ライフスタイルの変更 d) 社会的役割への復帰 e) 障害の受容過程		講義
		(2)回復期にある成人期の対象の看護	①身体機能回復のための援助 ②合併症・二次的障害の予防残存 ③残存機能の活用 ④セルフケアの援助 ⑤不安の軽減 ⑥障害受容への援助 ⑦生活再構築への援助 ⑧社会復帰への援助		講義
		(3)脳神経系で回復期にある成人期の対象の事例展開	①脳梗塞で中年期にある対象(女性)の事例展開		講義
		(4)言語障害のある対象の看護	①言語障害とは ②失語症・構語障害のある対象の看護 ③言語障害のある対象のリハビリテーション		演習 講義
		(5)運動麻痺のある対象の看護	①移動・移乗の援助(デモンストレーション等) 車いす・ベッド間の移乗 杖歩行		講義
		(6)運動器系に障害をもつ回復期にある成人期の対象の看護	①下肢切断術を受けた患者の障害受容のための看護 ②牽引療法を受ける対象の看護 ③ギプス療法を受ける対象の看護		講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経、[10] 運動器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅲ (慢性期にある対象の看護)	担当講師	勝間 玲蘭 青木 加代子
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
慢性期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
慢性期 生活習慣 自己管理 自己効力理論 エンパワメントモデル 指導					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 慢性期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	(1) 慢性期にある成人期 の対象の特徴	①身体面への影響 a) 合併症・二次的障害の出現 b) 慢性的な症状による苦痛 ②心理・社会面への影響 a) ライフスタイルの変更 b) 役割遂行の困難 c) 不安	講義	
		(2) 慢性期にある成人期 の対象の看護に必要な理論と 活用	① 病みの軌跡 ② 自己効力理論の活用 ③ エンパワメントモデルの活用	講義	
		(3) 慢性期にある成人期 の対象への指導	① 指導の目標 ② 指導の場 ③ 指導の時期 ④ 指導の進め方 a) アセスメント b) 目標の設定 c) 指導計画の立案 d) 実施 e) 評価	講義	
		(4) 慢性期にある成人期 の対象の看護	① 疾病の自己コントロールのための 援助 ② ライフスタイルの変更への援助 ③ 不安の軽減 ④ 家族や社会との調整	講義	
		(5) 内分泌系で慢性期にある 成人期の対象の事例展開	① 糖尿病で中年期にある対象(男性) の事例展開	講義 演習	
		(6) 腎不全で慢性期にある 成人期の対象の看護	① シヤントの管理 ② 食事療法 ③ ライフスタイル変更への援助 ④ 社会資源の活用	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝、〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅳ (終末期にある対象の看護)	担当講師	辻 森 弘 容 河原 敦 子 田崎 亜希子
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい					
終末期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
終末期 全人的苦痛 死の受容 グリーフケア 化学療法 骨髄抑制					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 終末期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 終末期にある成人期の対象の特徴	①身体面への影響 a) 全身的な苦痛・身体の変化 b) 生命の危機 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面への影響 a) 死の受容過程 b) 役割の喪失 c) 家族の不安・悲嘆	講義	
		(2) 終末期にある成人期の対象の看護	①全人的な苦痛の軽減 ②死の受容への援助 ③QOLの向上 ④役割変更に対する援助 ⑤家族への援助 ⑥グリーフケア ⑦病状の観察	講義	
		(3) 臨終時の看護	①死の3兆候 ②死亡に伴う身体的変化 ③エンゼルケア ④退院時の見送りと手続き	講義	
		(4) 大腸がん、肝転移で終末期にある成人期の対象の看護	①全身倦怠感への援助 ②痛みへの援助 ③食欲不振への援助 ④死の不安への援助 ⑤QOLの向上への援助 ⑥家族への援助 ⑦セルフケアへの援助	講義	
		(5) 造血器腫瘍で化学療法をうける成人期の対象の看護	①抗ガン剤による被曝と取り扱い上の注意点 ②抗ガン剤漏出の予防と対処 ③化学療法による副作用 ④化学療法による副作用に対する援助 a) 易感染 b) 易出血 c) 悪心・嘔吐 等 ⑤不安への援助	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」 メヂカルフレンド社				
評価の方法	筆記試験100%				

実習名 成人看護学実習 I (成人期の特徴をふまえた看護)

時期	2年 前期
単位(時間)	2単位 (90時間)

目的：健康障害をもつ成人期の対象の看護を実践する能力を養う。

目標	行動目標
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、情報を収集することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護プロフィールを述べることができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、各機能的健康パターンに必要な情報を述べることができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、逸脱した情報を述べることができる。 4. 疾患や治療をふまえ、対象者の状態を分析するために、共同問題において必要な情報を述べるができる。
2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、アセスメントをし、問題を明確にできる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ共同問題につながる情報を分析することができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・看護援助(ケア)につながる情報を分析し、統合することができる。 3. 分析をふまえ、問題を明確にできる。 4. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べるができる。
3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、計画を立案できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を解決するための目標を述べるができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、具体策を述べるができる。
4. 成人期の特徴と健康障害をふまえた援助が実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施前に対象者の状況を確認できる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、計画(援助の方法)にそって援助が実施できる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 日々の援助を評価するための事実を述べるができる。 6. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施した援助を評価できる。 7. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者の変化に合わせて援助方法が変更できる。
5. 人間関係を成立させるための行動ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重した行動をとることができる。 2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。

実習名 成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期の看護）

時期	3年 前期
単位(時間)	2単位(90時間)

目的：急性期・回復期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者のアセスメントができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病態および治療とその影響について述べるができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・共同問題について、その事実を述べるができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・共同問題の関連刺激について、その事実を述べるができる。 4. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べるができる。
2. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、計画に基づいて実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、実施前に対象者の状況を確認し、必要時は援助の変更ができる。 2. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 3. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、対象者の反応を確認しながら実施できる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 日々の看護を評価するための事実を簡潔に述べることができる。 6. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、看護の評価ができる。 7. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、対象者の変化に合わせて計画が変更できる。
3. 人間関係を成立するための行動ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。
4. 成人期における経過別看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施した看護をとおして、成人期における経過別看護について述べるができる。

実習名 成人看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期の看護）

時期	3年 後期
単位(時間)	2単位 (90時間)

目的：慢性期・終末期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者のアセスメントができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病態および治療とその影響について述べるができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・共同問題について、その事実を述べるができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・共同問題の関連刺激について、その事実を述べるができる。 4. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べるができる。
2. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、計画に基づいて実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、実施前に対象者の状況を確認し、必要時は援助の変更ができる。 2. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 3. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、対象者の反応を確認しながら実施できる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 日々の看護を評価するための事実を簡潔に述べることができる。 6. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、看護の評価ができる。 7. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、対象者の変化に合わせて計画が変更できる。
3. 人間関係を成立するための行動ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。
4. 成人期における経過別看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施した看護をとおして、成人期における経過別看護について述べるができる。

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学概論Ⅰ (老年期、加齢の概念)	担当講師	平野 まゆみ
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		高齢者の特徴とその生活を理解し、高齢者看護の基本を理解する。			
授業のキーワード		老年期 高齢者 加齢と老化 生活 高齢者の健康 高齢者と家族 介護家族 高齢者と社会			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 老年期を生きる人々の特徴が理解できる。	(1) 老年期の理解	①老年期の定義 ②加齢と老化 ③統計からの高齢者 ④生活の変化 ⑤老年期の発達と成熟の意味	講義	
		(2) 加齢に伴う変化	①身体的機能の変化 〈高齢者擬似体験〉 ②心理・精神的機能の変化 ③社会的機能の変化 ④フレイル ⑤疾病をめぐる特徴	講義 演習	
	2. 高齢者をとりまく社会について理解できる。	(1) 高齢化を取り巻く社会環境	①高齢化の国際的動向 ②わが国の高齢化の特徴	講義	
		(2) 高齢者と家族の支援	①介護家族の生活 ②家族エンパワメントの視点 ③介護家族の課題	講義	
	3. 高齢者看護の基本的な考え方が理解できる。	(1) 高齢者看護の基本	①高齢者のQOL ②高齢者看護活動の特性 ③高齢者看護の原則 ④高齢者看護に適用する理論・概念	講義	
		(2) 高齢者看護の倫理	①高齢者の権利擁護 ②高齢者の虐待	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学概論Ⅱ (高齢者と社会)	担当講師	長谷川 浩史 西村 優子
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 1.5 時間	実務 経 験	あり
授業の目的及びねらい		社会における高齢者施策の現状と課題を理解する。 認知症のある高齢者の理解を深める。			
授業のキーワード		高齢者施策 権利擁護 介護保険 認知症 超高齢社会 地域包括ケアシステム			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 高齢者施策の現状が理解できる。	(1) 高齢者施策	①高齢者の保健・医療・福祉施策の変遷 ②高齢者施策の基本的な考え方 ・高齢社会対策基本法 ③健康づくりの総合的推進 ④地域包括ケアシステム ⑤介護保険 ⑥高齢者医療制度	講義	
	2. 高齢者施策の課題が理解できる。	(1) 高齢者施策の課題	①高齢者の要介護者数の増加 ②認知症のある高齢者の増加 ③介護サービスや支援サービスの提供 ④超高齢社会に対応するための施策	講義	
	3. 認知症のある高齢者について理解できる。	(1) 認知症のある高齢者	①認知症のある高齢者の理解 ・認知症の定義 ・認知症の基本構造 ・認知症の診断・治療・予防	講義	
		(2) 認知症に対する施策	①認知症のある高齢者へのケアシステム ・認知症予防教室 ・グループホームの整備 ・相談事業 ②認知症のある高齢者の人権と権利擁護 ・権利擁護事業	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 「福祉小六法」 中央法規			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学援助論Ⅰ (日常生活援助と終末期看護)	担当講師	田原 恵 平尾 英子
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		高齢者の生活に影響を与える障害を理解する。 高齢者に対する援助を理解する。			
授業のキーワード		高齢者のアセスメント 高齢者の日常生活援助 終末期にある高齢者 廃用症候群			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 高齢者の健康を支える看護が理解できる。	(1) 高齢者の包括的機能評価	①日常生活動作の評価 (ADL) ・カツインデックス ・バーセルインデックス ②手段的日常生活動作の評価 (IADL) ・老研式活動能力指標 ③高齢者総合機能評価「CGA」	講義	
	2. 高齢者の日常生活を整える看護が理解できる。	(2) 高齢者の健康と看護	①健康生活の維持と快適に過ごすための援助	講義	
		(1) 加齢に伴う主要な機能障害の看護	①摂食障害、嚥下障害 ②脱水 ③排尿障害 ④排便障害 〈おむつ交換・摘便〉 ⑤睡眠障害 ⑥視覚障害 ⑦聴覚障害 ⑧コミュニケーション障害	演習 講義	
		(2) 廃用症候群のアセスメントと看護	①廃用症候群の定義 ②廃用症候群の原因とおもな症状 ③廃用症候群の予防策	講義	
		(3) 転倒のアセスメントと看護	①転倒が及ぼす影響 ②転倒の原因 ③転倒の予防策	講義	
	3. 高齢者の終末期の看護が理解できる。	(1) 高齢者の終末期の看護	①高齢者の終末期の特徴 ・エンドオブライフ ②苦痛の緩和 ③死への受容への援助 ・アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル ④高齢者の人格の尊重 ⑤家族への援助 ・グリーフケア	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学援助論Ⅱ (治療処置別・症状別看護)	担当講師	田原 恵 西村 優子
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
治療処置を受ける高齢者に対する看護を理解する。 認知症のある高齢者に対する援助を理解する。					
授業のキーワード					
高齢者の入院 高齢者と薬物療法 高齢者と検査 高齢者と手術療法 せん妄 認知症看護					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 検査、治療を受ける高齢者の看護が理解できる。	(1) 検査、治療を受ける高齢者の看護	①薬物療法 ②検査 ③手術療法		講義
		(3) 手術療法を受ける高齢者の事例展開	①大腿骨頸部骨折で手術療法を受ける後期高齢者の事例展開		講義
	2. 認知症のある高齢者の看護が理解できる。	(1) 認知症高齢者の看護	①認知症が高齢者の生活に与える影響 ②認知症高齢者とのコミュニケーション ③認知症高齢者の日常生活自立支援 ④認知症高齢者の心身の活性化 ⑤認知症の精神症状・行動障害への対応 ⑥認知症高齢者の安全を守るための援助 ・安全面、健康管理、事故予防 ⑦認知症高齢者を取り巻く環境と環境調整 ⑧認知症高齢者の家族への支援		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「系統看護学講座 臨床外科看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 運動器」 医学書院 「高齢者と先人の周手術期看護 2」 医歯薬出版株式会社 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

実習名 高齢者看護学実習 I (高齢者の理解)

時期	2年 前期
単位(時間)	1単位 45時間

目的 : 高齢者の特徴を理解し、看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

目 標	行動目標
1. 施設における高齢者の生活を理解できる。	1. 対象の加齢に伴う変化と健康状態を述べることができる。 2. 対象が受けている援助について述べるができる。 3. 対象の生活について述べるができる。
2. 施設における高齢者の看護を理解できる。	1. 施設における看護師の役割を述べるができる。 2. 施設における看護師と他職種との連携について述べるができる。
3. 高齢者施設の役割を理解できる。	1. 施設の位置づけを述べるができる。 2. 職員の構成と役割を述べるができる。 3. 施設における利用者の概要を述べるができる。
4. 人間関係を成立させるための行動がとれる。	1. 高齢者の特徴をふまえ、対象を尊重した行動をとることができる。
5. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを深めることができる。	1. 実習施設で学んだ高齢者の生活や援助を振り返り、高齢者の特徴をふまえた看護について考えることができる。 2. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを共有することができる。

実習名 高齢者看護学実習Ⅱ (高齢者の特徴をふまえた看護)

時期	2年 後期
単位 (時間)	3単位 (135時間)

目的 疾病や障害をもちながら療養生活をおくる高齢者を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目 標	行動目標
1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえたアセスメントができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、看護プロフィールを述べることができる。 2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、各機能的健康パターンに必要な情報を述べることができる。 3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・看護援助(ケア)の分析・統合ができる。 4. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、共同問題を分析することができる。 5. 分析をふまえ、問題を明確にできる。 6. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べることができる。
2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画が立案できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、目標を述べることができる。 2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、具体策を述べることができる。
3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画(援助の方法)に基づいて実施ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、実施前に対象者の状況を確認できる。 2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、実施時に対象者と家族に適切な説明ができ、同意を得ることができる。 3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画(援助の方法)に基づいて実施できる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、日々の看護を評価できる。
4. 人間関係を成立させるための行動ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重した行動をとることができる。 2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるることができる。
5. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを共有することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習で行った看護を振り返り、高齢者の特徴をふまえた看護について意味づけすることができる。 2. 各グループの発表を聞き、高齢者の特徴をふまえた看護について考えることができる。

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学概論Ⅰ (小児看護の役割)	担当 講師	大西 孝子	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	あり	
授業の目的及びねらい						
小児とその家族の健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。						
授業のキーワード						
子ども 家族 子どもの権利						
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 子どもとその家族を取り巻く社会の状況を理解できる。	(1)子どもと家族の理解	①子どもの概念 ②ライフサイクルからみた小児期 ③子どもと家族	講義		
		(2)子どもを取り巻く社会状況	①人口動態からみた統計の変化 ②子ども観の変遷 ③子どもと家族を支える法律と社会制度	講義		
			・児童福祉施策 ・母子保健施策 ・医療費の支援 ・予防接種 ・学校保健	講義		
	2. 小児看護の役割を理解できる。	(1)小児看護とは	①小児看護の対象 ②小児看護の場 ③小児看護の目標 ④小児看護の役割	講義		
		(2)小児看護の変遷	①小児医療の変遷 ②小児看護の変遷 ③小児看護の課題	講義		
	3. 子どもの権利と看護を理解できる。	(1)小児看護における権利	①子どもの人権 ②子どもの虐待 ③子どもの権利に関する法律・施策	講義		
		(2)小児看護における倫理	①小児看護における倫理的問題 ②小児看護と倫理的配慮			
	テキスト・参考文献	「系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生統計協会				
	成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学概論Ⅱ (小児の成長と発達)	担当講師	大西 孝子
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい		子どもの成長・発達を理解し、健康増進のための子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		成長・発達 発達段階 発達課題			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもの成長・発達について理解できる。	(1) 子どもの成長・発達とは	①成長・発達の原則 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価 ④発達課題と理論	講義	
	2. 子どもの発達段階の特徴と健康増進のための看護を理解できる。	(1) 新生児・乳児の特徴と健康増進のための看護	①新生児・乳児期の成長・発達 ②乳児の栄養 ③運動と遊び	講義	
		(2) 幼児の特徴と健康増進のための看護	①幼児期の成長・発達 ②基本的な生活習慣の獲得 ③幼児の養育および看護 ④安全対策 (事故防止)	講義	
		(3) 学童の特徴と健康増進のための看護	①学童期の成長・発達 ②栄養と食生活 ③学習と遊び	講義	
		(4) 思春期の子どもの特徴と健康増進のための看護	①思春期の成長・発達 ②心理・社会的適応に関する問題 栄養と食生活 ③健康問題行動と家族機能	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学援助論Ⅰ (疾患の理解と症状別看護)	担当講師	柳 貴英・松井 克之 古川 央樹・多賀 崇 澤井 俊宏・底田 辰之 山本 有美
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 健康障害をもつ小児とその家族への看護に必要な基礎的能力を養う。 2. 小児の主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する。					
授業のキーワード					
疾病・障害 外来受診 入院 小児					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病・障害をもつ小児とその家族への看護が理解できる。	(1)疾病・障害が小児と家族に与える影響	①疾病・障害に対する小児の反応 ②疾病・障害をもつ小児のその家族の反応	講義	
		(2)小児の健康問題と看護	①症状の改善と苦痛の緩和 ②治療における意思決定の支援 ③発達段階に即したセルフケアの支援 ④小児の日常生活にかかわる援助	講義	
		(3)健康問題をもつ小児の家族の看護	①親・きょうだいへの支援 ②家族関係の調整と社会資源の活用		
	2. さまざまな状況にある小児と家族への看護が理解できる。	(1)入院中の小児とその家族の看護	①入院環境と家族 ②小児の入院が家族に及ぼす影響と家族の反応	講義	
		(2)外来における小児とその家族の看護	①外来を受診する小児と家族の特徴 ②外来を受診する小児と家族の看護 ・小児外来の環境 ・外来看護の役割	講義	
		(3)生活制限のある小児とその家族の看護	①活動制限のある小児と家族 ②隔離中の小児と家族 ③食事制限のある小児と家族	講義	
		(4)在宅療養中の子どもとその家族の看護	①在宅療養中の子どもと家族の特徴 ②在宅療養中の子どもと家族の看護	講義	
		(5)主要症状を示す小児とその家族の看護	①不機嫌 啼泣 ②痛み ③発熱 ④嘔吐 ⑤下痢 ⑥脱水 ⑦けいれん ⑧発疹	講義	
	3. 小児の主な疾患の病態生理、検査、診断、治療について理解できる。	(1)新生児・低出生体重児の疾患	①呼吸窮迫症候群 ②新生児仮死 ③高ビリルビン血症	講義	
		(2)染色体異常	①ダウン症候群 ②ターナー症候群 ③脆弱X症候群		

	<p>(3)感染症</p> <p>(4)消化器疾患</p> <p>(5)循環器疾患</p> <p>(6)呼吸器疾患</p> <p>(7)神経疾患</p> <p>(8)アレルギー疾患</p> <p>(9)腎疾患</p> <p>(10)代謝、内分泌疾患</p> <p>(11)血液・リンパ系疾患</p> <p>(12)悪性新生物</p>	<p>①麻疹 ②風疹 ③水痘 ④百日咳</p> <p>⑤インフルエンザ ⑥伝染性単核球症</p> <p>⑦手足口病</p> <p>①腸重積 ②幽門狭窄症</p> <p>③急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎</p> <p>①川崎病 ②先天性心疾患</p> <p>①肺炎 ②気管支炎 ③クループ症候群</p> <p>④マイコプラズマ肺炎</p> <p>①てんかん ②熱性けいれん</p> <p>③脳性麻痺 ④進行性筋ジストロフィー</p> <p>①アトピー性皮膚炎②気管支喘息</p> <p>③アレルギー性紫斑病</p> <p>①ネフローゼ症候群 ②糸球体腎炎</p> <p>①低身長 ②フェニルケトン尿症</p> <p>③甲状腺機能低下症 ④糖尿病Ⅰ型</p> <p>①血友病 ②鉄欠乏性貧血</p> <p>①白血病 ②ウイルス腫瘍</p> <p>③神経芽腫</p>	<p>講義</p>
テキスト・参考文献	<p>「系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論」 医学書院</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 100%</p>		

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学援助論Ⅱ (健康の段階、発達段階に応じた看護)	担当講師	加藤 紗香 能登 昌子
開始年次	2年 後期	単位数時間数	1単位 30時間	実務経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
さまざまな状況にある小児と家族への小児看護を実践する基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
小児と家族 疾病の経過 発達段階 看護技術					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病の経過をふまえた小児とその家族への看護を理解できる。	(1) 急性期にある小児と家族の看護 (2) 周手術期の小児と家族の看護 (3) 慢性期にある小児と家族の看護 (4) 慢性期にある小児と家族の事例展開 (5) 終末期にある小児と家族の看護	①急性期の小児の特徴 ②急性期の家族の特徴 ③急性期の小児と家族への看護 ①小児の手術の特徴 ②手術を受ける小児の反応 ③周手術期の小児と家族の看護 ④退院への指導や援助と継続看護 ①慢性期の小児と家族の特徴 ②慢性期の小児とその家族の看護 ネフローゼ症候群の幼児期にある対象の事例展開 ①小児の生命、死についてのとらえ方 ②終末期にある小児の看護 ③終末期にある小児の家族の看護	講義 講義 講義 講義	
	2. 小児看護に必要な看護技術を習得できる。	(1) 検査・処置をうける小児と家族の看護 (2) 発達段階に応じた看護技術	①発達に応じた説明と同意 ②小児の安全・安楽への援助 ③小児の家族への援助 ①安全な入院環境の整備 ②バイタルサイン ③身体測定 ④与薬 ⑤輸液管理 ⑥吸入療法 ⑦酸素療法 ⑧検体採取 《援助場面における説明の方法》 (ロールプレイ) 乳幼児のバイタルサイン測定 乳幼児の与薬方法	講義 講義	演習

			乳幼児に必要な看護技術 <<輸液管理>> <<骨髄穿刺・腰椎穿刺>> <<吸入療法>>	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論」 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

実習名 小児看護学実習

時期	3年
単位 (時間)	2単位 (90時間)

小児看護学実習1

目的：特別支援学校での教育を通して、障害のある子どもの特徴を理解する。

目 標	行動目標
1. 障害のある子どもについて理解できる。	1. 子どもの発達と障害に応じた関わりについて述べるができる。 2. 障害のある子どもを取り巻く環境について述べるができる。

小児看護学実習2

目的：健康障害をもつ小児を理解し、小児とその家族の看護を实践できる能力を養う。

目 標	行動目標
1. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、小児のアセスメントができる。	1. 入院前と受け持ち時の小児の成長・発達を述べるができる。 2. 小児の成長・発達をアセスメントできる。 3. 小児のプロフィールを述べるができる。 4. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、看護診断・共同問題の根拠となる行動を述べるができる。 5. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、看護診断・共同問題の刺激を述べるができる。
2. 小児の成長・発達と健康障害をふまえて実施できる。	1. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、実施前に小児とその家族の状態を確認し、必要時計画（援助の方法）の変更ができる。 2. 小児とその家族に応じた説明と同意を得ることができる。 3. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、実施時に小児とその家族の反応を確認し、計画（援助の方法）にそって実施ができる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 日々の看護を評価するための事実を述べるができる。 6. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、実施した看護を評価できる。 7. 小児の成長・発達と健康障害をふまえ、計画（援助の方法）が変更できる。
3. 小児看護の役割が理解できる。	1. 実施した看護をとおして小児看護の役割を述べるができる。

分野	専門分野 II	授業 科目名	母性看護学概論	担 当 講 師	古市 さゆり
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実 務 経 験	あり
授業の目的及びねらい		母性看護の概念、及び、対象を取り巻く社会の変遷・動向について学習し、母性看護の基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		母性 性 リプロダクティブヘルス / ライツ ヘルスプロモーション 母子保健 生命倫理			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。	(1) 母性とは	①母性とは・父性とは・親とは ②母性看護の対象	講義	
		(2) セクシュアリティ	①性とは ②人間の性の特徴 ③セックスとジェンダー	講義	
		(3) リプロダクティブヘルス / ライツ	①リプロダクティブヘルス / ライツとは ②リプロダクティブヘルス / ライツの課題 ③ヘルスプロモーションとは ④女性の生涯にわたる健康教育	講義	
		(4) 母性看護のあり方	①母性看護とは ②母性看護の役割 ③母性看護の場と職種	講義	
		(5) 母性看護における倫理	①生命倫理と看護倫理 ②看護における倫理的意志決定	講義	
		(6) 母性看護における安全	①母性看護の現場における事故 ②母性看護・医療事故の予防	講義	
	2. 母性看護の歴史的変遷と母性看護の対象を取り巻く社会の現状について理解する。	(1) 母性看護の変遷と社会の現状	①母性看護の変遷 ②母子保健統計からみた動向 ③母性看護に関する組織と法律 ④母子保健施策からみた現状	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野 II	授業科目名	母性看護学援助論 I (母性のライフサイクルと看護)	担当 講師	古市 さゆり 永山 夕水
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. ライフサイクル各期の看護について理解する。 2. 女性特有の健康問題と看護について理解する。 3. 母性の健康をめぐる課題と看護について理解する。					
授業のキーワード					
ライフサイクル 母性 性機能 性教育 家族計画 不妊 更年期障害 女性生殖器疾患 健康課題					
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防、健康問題に対する看護について理解する。	(1) ライフサイクル (2) 思春期の健康と看護 (3) 成熟期の健康と看護 (4) 更年期の健康と看護 (5) 老年期の健康と看護	① ライフサイクルと健康 ② 現代女性のライフサイクルの変化 ① 性の発達 生殖器の形態、性機能 ② 思春期の特徴と健康教育 第二次性徴 月経 栄養 性教育 ③ 思春期の健康問題と看護 摂食障害 貧血 月経異常 ④ 10代の性がもたらす問題の多様性 人工妊娠中絶 性感染症 ① 成熟期の特徴と健康教育 結婚 家族計画 子育て ② 成熟期の健康問題と看護 不妊 周産期の死 ① 更年期の特徴と健康教育 ② 更年期におこりやすい健康問題と看護 ③ 更年期障害 ① 老年期の特徴 ② 老年期におこりやすい健康問題と看護	講義 講義 講義 講義 講義	
	2. 母性機能に影響を与える健康問題の看護について理解する。	(1) 女性生殖器疾患をもつ対象の看護	① 診察時の看護 ② 症状とその病態に対する看護 ③ 子宮疾患・卵巣疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護 ④ 乳房疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護	講義	
	3. 現代社会における母性の健康をめぐる課題について理解する。	(1) 母性の健康をめぐる課題	① 母性看護の対象を取り巻く環境 ② 国際化社会と母性看護 ③ 育児不安と虐待 ④ 性暴力	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論」医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野 II	授業科目名	母性看護学援助論II (妊娠期、分娩期の看護)	担当講師	唐島田 順 中井 愛 西川 早織 平本 留見
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
(妊娠期) 1. 妊娠期の生理的变化や、経過および看護について理解する。 2. 妊娠期の主な異常について学習し、予防と対処方法について理解する。 (分娩期) 3. 分娩期の生理的变化や、経過および看護について理解する。 4. 分娩期の主な異常について学習し、母子に及ぼす影響について理解する。					
授業のキーワード					
妊娠 胎児 分娩 生理的变化 ハイリスク妊娠 異常妊娠 異常分娩 早期母子接触 愛着形成					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 正常な経過をたどる妊婦の看護が理解できる。	(1) 妊娠の生理 (2) 妊婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	①妊娠の成立 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的变化 ①妊娠の受容と看護 胎児との愛着形成 ②妊婦の健康診査 ＜腹囲、子宮底測定＞ ③妊婦への看護 保健指導・妊娠の届け出 母乳栄養の利点 胎児心拍モニタリング ④分娩の計画と準備 バースプラン ⑤事例を用いた妊娠期のアセスメント		講義 講義 演習
	2. 妊娠期にみられる異常と妊婦の看護が理解できる。	(1) ハイリスク妊婦・異常妊娠と看護	①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 妊娠糖尿病 妊娠高血圧症候群・血液型不適合妊娠 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常 ⑥ハイリスク妊婦の看護		講義
	3. 正常な経過をたどる産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	①分娩の要素 ②分娩の経過 ＜胎児付属物の観察＞ ③産婦と家族の看護 早期母子接触 バースレビュー ④事例を用いた分娩期のアセスメント		講義 演習
	4. 分娩期にみられる異常と産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の異常と看護	①分娩にみられる異常 産道の異常・陣痛の異常・胎児付属物の異常(羊水混濁・MASを含む) 分娩時異常出血・産科処置と産科手術 ②異常状態にある産婦の看護 緊急帝王切開手術を受ける産婦の看護		講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院				
成績評価の方法					

分野	専門分野 II	授業科目名	母性看護学援助論Ⅲ (産褥期、新生児期の看護)	担当講師	寺本 美智代 中川 美千代
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
(産褥期) 1. 産褥期の生理的変化及び、母子、家族への看護について理解する。 2. 産褥期の主な異常について学習し、予防と対処方法について理解する。 (新生児期) 3. 新生児期の機能と生理的変化について理解する。 4. 子宮外生活への適応を促進する看護の基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
産褥 退行性変化 進行性変化 役割獲得 新生児 愛着・母子相互作用 子宮外適応現象 生理的変化					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる褥婦の看護が理解できる。	(1)産褥の身体的、心理・社会的変化 (2)褥婦と家族の看護	①退行性変化 ②進行性変化 ③褥婦・家族の心理的変化 ①身体機能回復への看護 活動・休息 栄養 排泄 子宮底の高さと硬さの観察 ②母乳栄養確立への看護 栄養 授乳 搾乳 乳房・乳頭の観察 ③役割獲得への看護 愛着・母子相互作用 育児技術 退院指導	講義 講義	
	2. 産褥期にみられる異常と看護が理解できる。	(3)産褥期にある対象の事例展開	①正常な経過をたどる壮年期にある経産婦の事例展開 展開する主な看護上の問題 ND：健康管理促進準備状態 ND：母乳分泌促進準備状態 ND：家族機能促進準備状態	講義 演習	
	3. 正常な経過をたどる新生児の看護が理解できる。	(1)産褥の異常と褥婦の看護	①子宮復古不全 ②産褥感染症 ③産褥血栓症 ④精神障害 ⑤産褥期の異常と看護	講義	
		(1) 新生児の機能と生理的変化	①新生児の機能 ②生理的変化 生理的体重減少・生理的黄疸	講義	
		(2) 出生直後の看護	①出生直後の観察・測定 ②出生直後のアセスメント	講義	
		(3) 新生児期の生理的変化と看護	①子宮外生活への適応状態 日々の観察とアセスメント ②子宮外生活適応への看護 保育環境 沐浴・感染予防 栄養 《全身の観察・バイタルサインの測定、更衣・沐浴・臍処置、移動・移送》 〈調乳〉 〈身体測定〉	講義	
			③新生児期におこりやすい医療事故	演習	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

実習名 母性看護学実習

時 期	3年
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的: 周産期の対象を通し、看護が実践できる基礎的能力を養う。

目 標	行動目標
1. 妊娠期・産褥期にある対象者のアセスメントができる。	1. 妊娠・分娩・産褥経過を判断するための事実を述べることができる。 2. 妊娠・分娩・産褥経過が順調であったのか、問題があったのかを述べる ことができる。 3. 産褥経過に妊娠・分娩の経過が及ぼす影響について述べる ことができる。
2. 妊娠期・産褥期にある対象者の看護が実施できる。	1. 妊婦・褥婦に対して、計画にそった実施ができる。 2. 妊婦・褥婦に実施した看護を報告することができる。 3. 妊婦・褥婦に実施した看護を評価することができる。
3. 胎児期・新生児期にある対象者の看護が実施できる。	1. 胎児の経過及び出生時の状態を判断するための事実を述べる ことができる。 2. 胎児の経過および出生時の状態が順調であったのか、問題があったのか を述べる ことができる。 3. 子宮外生活適応に、胎児の経過および出生時の状態が及ぼす影響 について 述べる ことができる。 4. 胎児・新生児に対して、計画にそった実施ができる。 5. 胎児・新生児に実施した看護を報告することができる。 6. 胎児・新生児の状態と実施した看護を評価することができる。
4. 周産期にある対象の看護を通して、母性看護について述べる ことができる。	1. 見学・実施した看護を通して、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期・新生 児期の看護について自らの考えを述べる ことができる。 2. 見学・実施した看護を通して、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期・新生 児期における母性看護の特徴について述べる ことができる。 3. 臨地実習で行った看護を振り返り、母性看護の学びを共有する ことができる。

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学概論Ⅰ (精神看護の基本概念と精神の健康支援)	担当講師	中島 彰子 平井 昭代
開始年次	1年後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
1. *精神看護の基本概念、基本理論と健康支援を理解する。					
授業のキーワード					
精神の健康 パーソナリティの発達 ストレス 危機 精神の健康問題 健康支援					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神看護の考え方や精神看護に必要な基礎理論を理解できる。	(1)精神看護の基本概念	①精神の健康とは ②精神障害のとらえ方 ③精神看護の対象 ④精神看護の役割 ・リエゾン看護	講義	
		(2)精神の構造・機能とパーソナリティの発達	①フロイトの3層の人格構造 ②防衛機制 ③パーソナリティの発達理論 ・フロイトの性的発達理論 ・エリクソンの漸成的発達理論	講義	
		(3)ストレスと危機	①ストレス ・ストレスとは ・ストレス反応の現れ方 ・ストレスへの対処 (コーピング) ②危機(クライシス) ・危機とは ・危機介入とは ・危機介入の理論的背景 ・危機介入の方法	講義	
	2. 現代社会における精神の健康問題、健康支援について理解できる。	(1)ライフサイクルにおける危機	①乳幼児期における危機 ②学童期における危機 ③思春期・青年期における危機 ④壮年期・中年期における危機 ⑤老年期における危機	講義	
		(2)精神の健康問題と健康支援	①精神の健康問題 ・自殺 ・ひきこもり ・不登校 ・自傷行為 ・薬物乱用 ・依存症 ・災害被害 ・犯罪被害 ・過労死 ・虐待・DV ②精神の健康支援	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「系統看護学講座 成人看護学〔I〕 成人看護学総論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法					

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学概論Ⅱ (精神保健福祉活動の動向)	担当講師	中島 彰子 森 このみ
開始年次	2年前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		1. 精神医療・看護の現状と精神保健医療福祉施策および倫理的課題について理解する。 2. 精神に障害のある対象の地域生活を支える精神保健医療福祉の実際を理解する。			
授業のキーワード		精神保健医療福祉活動の変遷 精神保健福祉法 心神喪失者等医療監察法 障害者総合支援法 地域精神保健医療福祉活動			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神保健医療福祉と法制度について理解できる。	(1) 精神保健医療福祉の変遷	①精神病概念の変遷 ②精神病者の処遇の歴史 ③現行法にいたるまでの法律の変遷 ④社会的偏見と差別 ・社会的烙印 (スティグマ)	講義	
		(2) 精神保健医療福祉の法制度	①精神保健福祉法 ②心神喪失者等医療観察法 ③障害者総合支援法	講義	
		(3) 精神保健医療福祉施策の動向	①我が国における精神保健医療福祉施策の現状 ②今後の課題	講義	
		(4) 精神保健医療福祉領域における倫理的課題	①看護の倫理とアドボカシー ②インフォームドコンセント ③精神に障害のある対象の権利擁護と自己決定支援	講義	
	2. 精神保健医療福祉活動とリハビリテーションについて理解できる。	(1) 精神科におけるリハビリテーションの考え方	①全人的リハビリテーション ②国際生活機能分類 (ICF) の考え方	講義	
		(2) 地域精神保健医療福祉活動における社会資源の活用	①治療を継続するための場 ・病院、診療所 ・デイケア、ナイトケア ・訪問看護 ②障害者総合支援法におけるサービス ③雇用および就労支援 ④家族や当事者によるサポート (ピアサポート) ⑤精神科チームによる連携 ⑥在宅医療との連携	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の理解と精神看護の特徴)	担当講師	井上 香里 上野 竜也
開始年次	2年後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
精神疾患		精神症状		精神科治療	
		治療的関わり		リスクマネジメント	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神症状のとりえ方と 主な疾患、検査、治療 について理解できる。	(1) 精神医学の基礎的知識	①精神医学を学ぶ意義 ②精神医学の対象	講義	
		(2) 精神症状と状態像の とりえ方	①感情の障害 ②知覚の障害 ③思考の障害 ④意欲の障害 ⑤記憶の障害 ⑥知能の障害 ⑦意識の障害 ⑧自我意識の障害	講義	
		(3) 主な精神疾患の理解	①精神疾患の分類 ・国際疾病分類 (ICD分類法) ・DSM分類法 ②神経発達症 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ③統合失調症 ④抑うつ障害と双極性障害 ⑤不安障害 (パニック障害) ⑥強迫性障害 ⑦ストレス因関連障害 (PTSD) ⑧解離性障害 ⑨身体症状症および関連症 ⑩摂食障害 ⑪物質関連障害 (アルコール、薬物) ⑫パーソナリティ障害	講義	
		(4) 医学的検査と心理検査	①医学的検査 ・脳検査 ②心理検査 ・知能検査 ・性格検査	講義	
		(5) 主な精神科治療	①薬物療法 ②精神療法 (CBT) ③社会療法 (作業療法、SST) ④電気けいれん療法 ⑤その他の療法	講義	

	<p>2. 精神に障害のある対象への看護の特徴と基本的援助を理解する。</p>	<p>(1) 精神に障害のある対象の理解</p> <p>(2) 精神科看護におけるケアの方法</p> <p>(3) 環境の治療的意義とその活用</p> <p>(4) リスクマネジメント</p>	<p>① 精神に障害のある対象及び家族の特性</p> <p>① 治療的関わりの考え方 ・看護師に求められるコミュニケーション技術</p> <p>② 日常生活行動の援助 ・入院患者の日常生活 ・治療としての生活援助 ・社会学習への援助</p> <p>③ 服薬治療にかかわる援助</p> <p>① 病院・病棟の環境 ② 環境の治療的意義 ③ 環境の治療的活用</p> <p>① 自殺 ② 暴力行為 ・包括的暴力防止プログラム (CVPPP)</p> <p>③ 無断離院 ④ 誤嚥・窒息 ⑤ 転倒・転落</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」メディカ出版</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験100%</p>			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学援助論Ⅱ (疾病の経過に応じた看護)	担当講師	中島 彰子 井手 祐樹 金岡 鈴美
開始年次	2年後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		精神に障害のある対象と家族に対して健康回復に向けた看護援助が理解できる。			
授業のキーワード		経過別 安全確保 睡眠と休息の確保 現実感の獲得 セルフケア 退院支援			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神に障害のある対象の疾病の経過と症状、治療をふまえた看護について理解できる。	(1) 様々な経過にある対象の看護	①急性期～回復期 ・本人および医療者の安全確保(行動制限・隔離、拘束) ・身体状態のアセスメント ・家族への援助 ・睡眠と休息の確保 ・現実感の獲得 ・治療への合意形成 ・再発予防のための心理教育 ②慢性期 ・セルフケアの援助 ・社会復帰に向けての支援 ・長期入院患者の退院支援 ・地域における支援システムの活用 ・訪問・外来での看護の役割	講義	
		(2) 様々な精神症状を呈する対象の看護	①幻覚・妄想 ②意欲低下 ③不安 ④強迫 ⑤希死念慮 ⑥躁、抑うつ ⑦依存 ⑧攻撃 ⑨操作等	講義	
		(3) 様々な治療を受ける対象の看護	①薬物療法 ②精神療法 (CBT) ③社会療法 (作業療法、SST) ④電気けいれん療法 ⑤その他の療法	講義	
	2. 主な精神疾患をもつ対象の看護について理解できる。	(1) 主な精神疾患の看護	①神経発達症の看護 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ②統合失調症の看護 ③抑うつ障害と双極性障害の看護 ④不安障害 (パニック障害) の看護 ⑤強迫性障害の看護	講義	

		(2)慢性期にある精神に障害のある対象の事例展開	⑥ストレス因関連障害 (PTSD) の看護 ⑦解離性障害の看護 ⑧身体症状症および関連症の看護 ⑨摂食障害の看護 ⑩物質関連障害 (アルコール、薬物) の看護 ・セルフヘルプグループ (AA) の活動 ⑪パーソナリティ障害の看護 ①統合失調症で壮年期にある対象の事例展開 ②プロセスレコードの考察	特別講義 講義 演習
テキスト・参考文献	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」メディカ出版 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020」 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験100%			

実習名 精神看護学実習

時期	3年
単位(時間)	2単位(90時間)

精神看護学実習1(病院実習)

目的：精神に障害のある対象と家族の特徴を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 精神に障害のある対象の療養環境を理解することができる。	1. 入院環境の治療的意義を述べることができる。 2. リスクマネジメントの実際について述べることができる。
2. 精神に障害のある対象者を理解することができる。	1. 健康障害を考慮して受け持つまでの経過を述べることができる。 2. 生理的適応様式に影響を及ぼす刺激と適応問題を述べることができる。 3. 対象者自身が自己をどのように捉えているか述べることができる。 4. 対象者の持つ役割とその遂行状況について述べるができる。 5. 対象者を取り巻く人間関係について述べるができる。 6. 健康障害が対象者の生活に与える問題を述べるができる。
3. 精神に障害のある対象者に対する看護を実施できる。	1. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえた計画立案ができる。 2. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえ、目標の達成に向けて実施できる。 3. 実施した看護を報告できる。 4. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえ、日々の看護を評価できる。
4. 治療環境としての自己を活用することができる。	1. 対象者の言動の意味・原因について述べるができる。 2. 自己の言動が対象者に及ぼす影響について述べるができる。 3. 対象者と自己の相互作用を考察し、関わりを振りかえることができる。 4. 対象者と自己の相互作用における考察を日々の関わりにかすことができる。
5. 対象者—看護者関係の発展について理解できる。	1. 実施した看護を通して、対象者—看護者関係の発展について考察することができる。

精神看護学実習2(社会復帰施設実習)

目的：社会復帰施設での活動を通して、精神の障害がありながら地域で生活するための支援について理解できる。

目標	行動目標
1. 精神に障害のある対象が地域で生活するための支援について理解できる。	1. 施設に通所している利用者と家族の実際について述べるができる。 2. 社会復帰施設の役割を述べるができる。 3. 社会復帰支援に対する自己の考えを述べるができる。

5. 統 合 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
在宅看護論 (臨地実習)	在宅看護概論Ⅰ (在宅看護の概念)	1	15
	在宅看護概論Ⅱ (在宅ケアシステム)	1	15
	在宅看護援助論Ⅰ (日常生活援助・医療処置を伴う援助)	1	30
	在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の援助)	1	30
	在宅看護論実習	2	90
	小 計	6	180
看護の統合と実践 (臨地実習)	総合看護	1	30
	看護医療安全	1	30
	災害看護	1	30
	看護技術評価	1	15
	統合実習	2	90
	小 計	6	195
合 計		12	375

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護概論Ⅰ (在宅看護の概念)	担当講師	北村 幸恵
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい		在宅看護の特徴および役割について理解する。			
授業のキーワード		在宅看護 訪問看護 生活者 生活の質 在宅療養者と家族 権利擁護			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅看護の概念を理解できる。	(1) 在宅看護とは	①日本の在宅看護の変遷と社会的背景 ②在宅看護の目的 ③在宅看護の内容	講義	
		(2) 在宅看護の特性	①在宅で療養しながら生活するとは ②在宅療養を支える人々 ③訪問看護とは ④訪問看護の制度 ⑤訪問看護の役割	講義	
		(3) 在宅看護における倫理	①療養者と家族の意思決定支援 ②療養者と家族の権利擁護	講義	
	2. 在宅看護の対象を理解できる。	(1) 在宅療養者の特徴	①年齢からみた特徴 ②疾患からみた特徴 ③障害からみた特徴 ④在宅療養状態別にみた特徴	講義	
		(2) 家族の特徴	①家族の機能と変遷 ②家族を理解するための基礎理論 ・家族システム理論 ・家族対処理論 ・構造-機能理論 ③介護家族の状況	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護概論Ⅱ (在宅ケアシステム)	担当講師	田中 陽子
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい					
1. 在宅ケアシステムの機能を理解し、関係機関・関係職種の役割について学ぶ。 2. ケアマネジメントについて理解する。 3. 訪問看護活動と訪問看護ステーションの役割について理解する。					
授業のキーワード					
在宅ケアシステム 連携・協働 ケアマネジメント 社会資源 訪問看護ステーション					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅ケアシステムについて理解できる。	(1)在宅ケアに関わる 保健医療福祉施策 (2)在宅ケアシステムの 機能 (3)地域の社会資源(在 宅ケア関連サービス) の種類とその活用	①介護保険制度における在宅要介護者等へのサービス・施設サービス ②医療保険制度における施設および在宅サービス ③地域包括支援センター ①看護職と他の関係職種との連携と協働 ②病院内の看護の連携 ③施設内看護(臨床看護師)と在宅看護(訪問看護師)間の連携 ④退院調整看護師の役割 ⑤ボランティア、近隣の人々との交流と協働	講義 講義 講義	
	2. 関係機関の機能と関係職種の役割について理解できる。	(1)保健医療福祉機関	①医療施設、介護保険施設、保健機関等の役割 ②関係職種の役割 ③関係職員・機関との連携	講義 講義	
	3. ケアマネジメントについて理解できる。	(1)在宅ケアと ケアマネジメント	①ケアマネジメントの目的 ②ケアマネジャーの役割 ③ケアマネジメントの記録・情報管理	講義	
	4. 訪問看護活動を理解できる。	(1)在宅ケアシステム における訪問看護 活動	①訪問看護師の役割 ②在宅ケアを支える訪問看護ステーションの設置と管理運営 ③訪問看護ステーションの活動の実際 ④訪問看護記録		
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護援助論Ⅰ (日常生活援助・医療処置を伴う援助)	担当講師	内田 善子 高田 直美 原田 美紀
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
1. 在宅での療養生活に必要な環境の調整と日常生活行動の援助を習得する。 2. 在宅での医療処置の方法や療養者・家族への看護について理解する。					
授業のキーワード					
マナー 在宅での日常生活援助 在宅での医療処置					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 在宅療養の場に応じた日常生活援助技術を習得できる。	(1)訪問看護における看護者に必要な態度 (2)日常生活の援助	①在宅における援助の特徴 ②家庭訪問の意義と訪問時のマナー 在宅におけるコミュニケーション技術 ①住環境の整備 ②食事の援助 ③排泄の援助 ④清潔・衣生活の援助 《入浴、家庭にある物品を使用した洗髪・陰部洗浄》 ⑤移動の援助 《福祉用具を使用した移動》 ベッド上での体位変換 ベッドと車椅子間の移乗		講義 講義 演習 演習
	2. 在宅で医療処置を必要とする人の看護を理解できる。	(1)医療処置を伴う援助	①服薬支援 ②経管栄養法 《経鼻栄養・胃瘻栄養》 ③在宅輸液管理 ④膀胱留置カテーテル管理 《膀胱留置カテーテル管理》 ⑤在宅酸素療法 (HOT) ⑥在宅人工呼吸療法 (HMV) ⑦持続携帯式腹膜灌流 (CAPD) ⑧在宅における褥瘡予防と褥瘡ケア 《褥瘡予防と褥瘡ケア》 ⑨在宅におけるストーマケア 《人工肛門》(デモンストレーション等) 人工膀胱		講義 演習 演習 演習
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版 「ビジュアル 臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の援助)	担当講師	北村 幸恵 今江 照美
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり
授業の目的及びねらい		1. さまざまな状況にある在宅療養者・家族の看護の実際を理解する。 2. 在宅での終末期看護を理解する。			
授業のキーワード		在宅看護 療養者と家族 価値観 在宅終末期のケア			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅における対象の看護を理解できる。	(1) 在宅における療養者と家族の理解 (2) 脳血管障害で後遺症をもつ療養者と家族の事例展開	①療養者と家族の生活状況 ②療養者とその家族の生活史・生活習慣・価値観 ③療養者と家族の社会資源の活用 ④療養者と家族の生活に影響を及ぼす因子 ⑤療養者と家族の看護	講義 講義 演習 講義	
	2. 在宅で療養する人と家族の状況に応じた看護を理解できる。	(1) 在宅における慢性疾患のある療養者と家族の看護 (2) 在宅における難病のある療養者と家族の看護 (3) 在宅における精神疾患の療養者と家族の看護 (4) 在宅における小児と家族の看護 (5) 在宅におけるリスクマネジメント	①慢性疾患のある療養者の特徴 ②在宅で生活する慢性疾患の療養者の看護 ①難病の療養者の特徴 ②在宅で生活するALSの療養者の看護 ①精神疾患の療養者の特徴 ②在宅で生活する統合失調症の療養者の看護 ①在宅ケアを必要とする小児の特徴 ②在宅における小児看護 ①感染の予防とその対応 ②リスクマネジメント ・在宅看護におけるリスク ・事故防止と危機管理	講義 講義 講義 講義 講義 講義	
	3. 在宅における終末期の看護を理解できる。	(1) 在宅における終末期療養者の特徴 (2) 終末期プロセスと療養者および家族への支援	①終末期にある療養者の特徴 ①終末期プロセスとケアの特徴 訪問導入期・安定期・不安定期・死亡直前期・死亡後 ②訪問看護師が支える終末期ケア	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験100%				

実習名 在宅看護論実習

時期	3年
単位(時間)	2単位(90時間)

目的：在宅療養者とその家族を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 在宅療養者とその家族を生活者として捉えることができる。	1. 療養者とその家族の生活の状況を述べるができる。 2. 療養者とその家族の生活史・生活習慣・価値観を述べるができる。 3. 療養者とその家族の生活に影響を及ぼしている因子とその関連を述べるができる。
2. 在宅療養者とその家族の主体性を尊重し、QOLの向上をめざす看護が実施できる。	1. 訪問時の援助計画を立案できる。 2. 療養者とその家族の意向や生活のペースを尊重した実施ができる。 3. 訪問時の基本的な態度をとることができる。
3. 在宅ケアを効果的に行うための保健・医療・福祉の連携と看護職の役割が理解できる。	1. 訪問看護ステーションの概要と役割を述べるができる。 2. 療養者とその家族を支える保健・医療・福祉の連携の実際を述べるができる。 3. 在宅ケアシステムを理解し、その中での看護師の役割を述べるができる。

分野	統合分野	授業科目名	総合看護	担当講師	山中 寛恵 水谷 真由美	東 美香
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり	
授業の目的及びねらい						
1. 看護を取り巻く諸制度や看護管理について理解できる。 2. 看護倫理が理解できる。 3. 看護の国際協力のあり方や看護の動向が理解できる。 4. 看護研究の基礎が理解できる。						
授業のキーワード						
看護倫理 看護管理 リーダーシップ メンバーシップ 国際看護 看護研究						
時間	目標	主題	内容			指導方法
	1. 看護管理について理解する。	(1)看護管理	①看護管理とは ②看護におけるマネジメント ③看護サービスのマネジメント ・看護の質の保障 ・人材のマネジメント ・物品・設備環境のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織のリスクマネジメント ・看護サービスの評価			講義
		(2) チーム医療	①看護職の責任と役割 ②多職種との連携・協働			講義
		(3)看護業務におけるチームワークとリーダーシップ	①組織とマネジメント ②リーダーシップ ③看護チームでの情報伝達・共有 ④看護師長の役割と業務 ⑤チームリーダーの役割と業務 ⑥チームメンバーの役割			講義
		(4)看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア形成と成長			講義
	2. 生命の尊重及び人権の擁護を踏まえて看護職者の倫理について理解できる。	(1)看護職に求められる倫理	①患者の権利 ②看護職の職業倫理			講義
		(2)生命の尊厳と倫理	①現代の医療・看護をめぐる倫理的 問題			
	2. 看護の動向と課題について理解できる。	(1)看護の国際協力	①世界の健康問題の現状 ②国際協力の仕組み ③プライマリーヘルスケア ④異文化の理解			講義
		(2)日本での看護の課題と活動の方向性	①社会状況の変化と看護 ②看護活動に期待されるもの ③多職種との協働の中で看護の果たす 役割			講義

4. 看護研究の基礎が理解できる。	(1) 看護における研究の意味	①研究とは ②看護研究とは ③研究過程の外観	講義
	(2) 看護研究における倫理	①研究における倫理の必要性 ②研究と基本的人権 ③倫理上の原則 ④研究計画審査機構の設置	講義
	(3) 研究デザイン	①研究過程における研究デザインの位置づけ ②研究デザインの種類	講義
	(4) 文献検討 (検索)	①文献検討 (検索) の意義 ②文献検索の資料と活用の仕方 ③文献の読み方 ④文献整理の方法	講義
	(5) 論文のまとめ方	①研究計画書作成の目的と概要 ②研究計画書の作成 ③論文の作成 ④学会発表の意義	講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 看護研究」 医学書院 「系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕看護管理」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	統合分野	授業科目名	看護医療安全	担当講師	勝間 玲蘭 濱田 滋子 松田 昌子
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい		1. 医療事故の問題について学び、リスクマネジメントの基礎を理解する。 2. 医療事故防止の方法を理解する。			
授業のキーワード		医療事故 看護事故 リスクマネジメント ヒューマンエラー 事故の防止と方法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療の現場におけるリスクマネジメントの基礎が理解できる。	(1) 医療安全を学ぶことの意味 (2) 医療事故防止の考え方と防止のためのシステム	①人間の特性とヒューマンエラー ②事故発生のメカニズム ①医療事故と看護業務 a) 看護業務から見る医療事故 b) 看護事故の構造 c) 看護事故防止の考え方 ②リスクマネジメントの考え方 ③医療事故の分析 a) インシデントレポートと分析 b) 事故分析の方法 ④組織としての医療安全対策 KYT (危険予知トレーニング) ⑤国内外の医療安全対策	講義 講義	
	2. 看護事故を自分自身に起こりうる身近な問題として捉え、その防止の方法について理解できる。	(1) 診療の補助業務に伴う事故防止 (2) 療養上の世話における事故防止 (3) 共通する間違いと事故の発生要因 (4) 医療安全とコミュニケーション (5) 医療従事者の安全と事故防止 (6) 事故防止の実際	①注射業務と事故防止 ②注射業務で用いる機器での事故防止 ③輸血業務と事故防止 ④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養注入と事故防止 ⑥チューブ管理と事故防止 ①転倒・転落事故防止 ②誤嚥事故防止 ③異食事故防止 ④入浴中の事故防止 ①患者間違い ②タイムプレッシャーと途中中断 ③思い込み ①事故防止のためのコミュニケーション ①感染 ②放射線被曝 ③医薬品の曝露 ④暴力 《看護事故体験》	演習 講義 講義 講義 演習	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕医療安全」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	統合分野	授業科目名	災害看護	担当講師	西村 寿加代 松浦 和彦
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	あり
授業の目的及びねらい		<p>1. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害時における看護の役割・機能を学ぶ。 2. 災害時の看護が実践できる能力を養う。</p>			
授業のキーワード		災害サイクル 災害種類別の疾患の特徴 PTSD CPR トリアージ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 災害および災害看護に関する基礎知識が理解できる。	(1)災害と看護	①災害・災害看護の定義 ②災害と災害看護の歴史 ③災害の種類と被害の特徴 ④災害サイクル	講義	
		(2)災害発生時の社会の対応・しくみ	①災害に関連する国の政策、法律、制度 ②災害時の組織体制 ③災害時の情報収集と伝達 ④災害時の連携と協働、感染症対策 ⑤わが県の支援体制	講義	
		(3)災害が生命や生活に及ぼす影響と看護	①配慮を必要とする人への支援と看護 ②被災者と支援者の心理の理解と援助	講義	
	2. 災害時における看護の役割と機能について理解できる。	(1)災害時の看護の役割と看護活動	①災害サイクルに準じた看護活動 静穏期・準備期、超急性期、急性期、亜急性期、復旧復興期 ②避難所、仮設住宅、復興住宅での看護	講義	
	3. 災害時に必要な看護技術を習得できる。	(1)災害発生時の看護	①災害時必要な看護技術 《災害発生時指示に従った行動》 《トリアージ》 《小児の心肺蘇生》 《心肺蘇生（AEDを含む）》 《救急技術（止血法、包帯法）》	講義 演習	
テキスト・参考文献		「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 ③ 災害看護」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	統合分野	授業科目名	看護技術評価	担当講師	寺本 美智代
開始年次	3年 前期	単位数時間数	1単位 15時間	実務経験	あり 「看護師としての臨床経験」
授業の目的及びねらい					
限られた時間の中で、複数の対象者に必要な看護を実践するための能力を養う。					
授業のキーワード					
時間管理 優先順位 複数対象者の援助 状況に応じた援助 多重課題					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. チームの一員として対象に必要な看護を実施する方法について理解できる。	(1) 一日の業務の組立て	①複数対象者を受け持つための情報収集・管理 ②一日のスケジュールの立案と業務時間の管理 タイムスケジュールの作成 複数対象者への援助の優先順位の決定 業務に要する時間の把握 人的資源とチームメンバーとの協力		講義
		(2) 多重課題への対処	①多重課題とは ②多重課題遂行時の危険性 ③多重課題発生時の対処の原則		講義
	2. 複数の対象者の行動計画を作成する方法を習得できる。	(1) 一日の行動計画の作成	①複数の対象者の事実分析 ②複数の対象者の行動計画を作成 ③行動計画における時間管理、優先順位の根拠の明確化		講義
		(2) 複数の対象者の状況に応じた行動計画の立案	①事例を用いた行動計画の立案 複数の対象者の状況と看護計画の把握 複数の対象者の状況に応じた行動計画の立案 優先順位の決定とその根拠の明確化		演習
	3. 複数の対象者の状況に応じて看護を実施・評価する方法を習得できる。	(1) 複数の対象者の状況に応じた援助の実施と評価	① 複数の対象者の状況に応じた援助の実施 状態観察における援助 状態にあわせた観察とアセスメント <複数対象者の状態観察シミュレーション> ②複数の対象者の状況に応じた援助の評価 優先順位の妥当性、時間管理の妥当性 状況に応じ援助方法の変更、行動計画の修正		演習
		(2) 多重課題発生時の対処の実際と評価	①多重課題発生時の援助の実施 多重課題の状況把握と判断 多重課題への対処 <多重課題シミュレーション> ②多重課題発生時の援助の評価 優先順位の妥当性、時間管理の妥当性 受持ち時に必要な情報、チームの連携		演習
テキスト・参考文献		「新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全」 メデカルフレンド社			
成績評価の方法		課題 30% レポート 70%			

実習名 統合実習

時 期	3年後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：既習の学習を統合し、専門職として看護が実践できる能力を養う。

目 標	行動目標
1. 看護管理の実際を理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟師長業務の見学をとおして、師長業務の実際と役割を述べるができる。 2. リーダー業務の見学をとおして、リーダー業務の実際と役割を述べるができる。 3. メンバー業務の体験をとおして、チームの一員としての役割を述べるができる。
2. 複数の対象者に対して看護を実践できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の対象者の現在の状況を把握し述べるができる。 2. 複数の対象者における1日の行動計画を、優先順位を考慮して立案できる。 3. 複数の対象者に対して、実施前に対象者の状況を確認し必要時は援助の変更ができる。 4. 複数の対象者に対して、実施時に対象者へ説明し同意を得ることができる。 5. 複数の対象者に対して、対象者の状況に応じた援助を反応を確認しながら実施できる。 6. 複数の対象者に対して、優先順位を考慮し適切な時間内で援助が実施できる。 7. 複数の対象者の日々の看護を評価できる。 8. 複数の対象者の援助を実施して、優先順位の判断と時間管理の妥当性を評価できる。
3. 看護チームの一員として調整・報告ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1日の行動計画の調整ができる。 2. 対象者の状況と援助の進行状況について報告・調整できる。
4. 専門職である看護師をめざすものとして基本的な態度をとることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を成立させるための行動をとることができる。 2. 看護師としての自己課題を明確にできる。

VI マトリックス

1. 事例のマトリックス

2. 看護基礎技術のマトリックス

1. 事例のマトリックス

領域	基礎看護学	成人看護学	成人看護学	成人看護学
講義時期	1年次・後期	2年次・前期	2年次・前期	2年次・後期
発達段階・性	老年期・男性	中年期・男性	中年期・女性	中年期・男性
疾患	細菌性肺炎	急性心筋梗塞	脳梗塞	糖尿病
疾病の経過	回復期	急性期	回復期	慢性期
症状	呼吸困難 分泌物増加 咳嗽	胸痛 脂質異常症	高血圧 脂質異常症 運動機能障害 感覚障害	高血糖 脂質異常症 糖尿病神経障害
治療・処置	薬物療法 安静療法	経皮的冠状動脈インター ベーション 安静療法 薬物療法(内服・輸液)	理学療法 薬物療法(内服)	食事療法 薬物療法(インスリン・内服) 運動療法
看護診断(問題全て)	* 詳細別紙			
解決目標(展開する問題)	* 詳細別紙			

老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期
老年期・女性	幼児期・男児	壮年期・女性(経産婦)	壮年期・女性	老年期・女性
大腿骨頭部骨折	気管支喘息	正常分娩	統合失調症	脳梗塞後遺症
急性期～回復期	急性期	産褥期・新生児期	慢性期	慢性期
術後せん妄 脱臼	不機嫌 呼吸困難 咳嗽 喘鳴	<生理的变化> <生理的变化> 子宮底の変化 体重減少 悪露の変化 黄疸 乳汁分泌 心理的变化	意欲低下 関心の低下 幻覚(幻聴) 妄想 認知機能障害	右片麻痺(不全麻痺) 運動障害 嚥下障害 言語障害
手術療法 理学療法	薬物療法 (輸液・吸入・内服)		薬物療法(抗精神病薬) 社会療法 精神療法	薬物療法 経管栄養(胃瘻)

* 詳細別紙

* 詳細別紙

2. 看護技術のマトリックス

項目		当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	成人看護学
1 環境調整	①患者にとって快適な病床環境をつくることができる	I	基礎在宅	講義 環境人間学	演習 環境整備	
	②基本的なベッドメイキングができる	I	基礎		演習 ベッドメイキング	
	③臥床患者のリネン交換ができる	II	基礎		演習 寝衣リネン交換	
2 食事の援助	①患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	基礎老年		演習 食事介助	
	②患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	基礎		講義	
	③経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	在宅			
	④患者の栄養状態をアセスメントできる	II	基礎		講義	
	⑤患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	成人			講義
	⑥患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	II	成人			講義
	⑦患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	在宅			
	⑧モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	在宅			
	⑨電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	基礎		講義	
	⑩患者の食生活上の改善点がわかる	IV	成人			講義
3 排泄援助	①自然な排便を促すための援助ができる	I	基礎老年		講義	
	②自然な排尿を促すための援助ができる	I	基礎老年		講義	
	③患者に合わせて便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	基礎		演習 便・尿器の使い方	
	④膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	基礎在宅		講義	
	⑤ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	基礎		演習 ポータブルトイレでの排泄援助	
	⑥患者のおむつ交換ができる	II	老年			
	⑦失禁をしている患者のケアができる	II	老年在宅			
	⑧膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	基礎在宅		講義	
	⑨モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	基礎在宅		演習 導尿	
	⑩モデル人形にグリセリン流腸ができる	III	基礎		演習 流腸	
	⑪失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	在宅			
	⑫基本的な排便の方法、実施上の留意点がわかる	III	老年			
	⑬ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	IV	在宅			
4 活動・休息援助	①患者を車椅子で移送できる	I	基礎		演習 車椅子の移乗・移送	
	②患者の歩行・移動介助ができる	I	基礎		演習 安楽な体位・体位変換移動と移送	
	③廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	老年			
	④入眠・睡眠を意図した日中の活動の援助ができる	I	基礎		講義	
	⑤患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	基礎		講義	
	⑥臥床患者の体位変換ができる	II	基礎在宅		演習 体位変換	
	⑦患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II	基礎成人在宅		演習 車いすの移乗	講義
	⑧廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	老年			
	⑨目的に応じた安静保持の援助ができる	II	基礎		演習 安楽な体位の保持	
	⑩体動制限による苦痛を緩和できる	II	基礎		演習 安楽な体位の保持	
	⑪患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II	基礎		演習 ストレッチャーの移乗	
	⑫患者のストレッチャー移送ができる	II	基礎		演習 ストレッチャーの移送	
	⑬関節可動域訓練ができる	II	基礎	講義 リハビリテーション	演習 関節可動域の測定	
	⑭廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	IV	老年			
5 清潔・衣生活援助	①入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	基礎在宅		講義	
	②患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	基礎		演習 手浴、足浴	
	③清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	基礎		演習 全身清拭	
	④洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	基礎		演習 洗髪	
	⑤口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	基礎		演習 口腔ケア	
	⑥患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	基礎		講義	
	⑦持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	基礎		演習 寝衣交換、寝衣リネン交換	
	⑧入浴の介助ができる	II	基礎在宅		講義	
	⑨陰部の清潔保持の援助ができる	II	基礎在宅		演習 陰部洗浄	
	⑩臥床患者の清拭ができる	II	基礎		演習 全身清拭	
	⑪臥床患者の洗髪ができる	II	基礎在宅		演習 洗髪	
	⑫意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	基礎		演習 口腔ケア	
	⑬患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II	老年在宅			
	⑭持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	成人		演習	輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換
	⑮沐浴が実施できる	II	母性			

項目		当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	成人看護学	
6	呼吸循環を整える技術	①酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	基礎 在宅	講義		
		②患者の状態に合わせた温療法・冷療法が実施できる	I	基礎	講義		
		③患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	基礎	講義		
		④末梢循環を促進するための部分浴・薬法・マッサージができる	I	基礎	演習	手浴・足浴	
		⑤酸素吸入療法が実施できる	II	基礎 小児	演習	酸素吸入	
		⑥気道内加湿ができる	II	基礎 小児	演習	吸入	
		⑦モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	成人		演習	排痰の援助(吸引(口腔・ 鼻腔・気管切開孔)体位ド レナージ、タッピング)
		⑧モデル人形で、気管内吸引ができる	III	成人		演習	
		⑨モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	成人		演習	
		⑩酸素ポンプの操作ができる	III	基礎	演習	酸素ポンプの取り扱い	
		⑪気管内吸引時の観察点がわかる	IV	成人		講義	
		⑫酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる	IV	基礎	講義		
		⑬人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
		⑭低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる	IV	成人		講義	
		⑮循環機能のアセスメントの視点がわかる	IV	基礎	講義		
7	創傷管理	①患者の褥瘡発生の危険をアセスメントできる	I	基礎 在宅	講義		
		②褥瘡予防のためのケアが計画できる	II	基礎 在宅	講義		
		③褥瘡予防のためのケアが実施できる	II	基礎 在宅	講義		
		④患者の創傷の観察ができる	II	成人		講義	
		⑤学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	基礎 統合	演習	包帯法	
		⑥創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	III	成人		演習	創傷処置
		⑦創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	IV	基礎 成人	講義		講義
8	与薬	①経口薬(パッカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	基礎 精神	講義		
		②経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	基礎	講義		
		③直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	基礎	講義		
		④点滴静脈内注射をうけている患者の観察点がわかる	II	基礎	講義		
		⑤モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III	基礎	演習	直腸内与薬	
		⑥点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III	基礎 小児	講義		
		⑦モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形で皮下注射	
		⑧モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形で筋肉注射	
		⑨モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形に点滴静脈内注射	
		⑩輸液ポンプの基本的な操作ができる	III	基礎	演習	医療機器の取り扱い	
		⑪経口薬の種類と服用方法がわかる	III	基礎 小児	講義		
		⑫経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV	基礎	講義		
		⑬中心静脈内栄養を受けている患者の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
		⑭皮内注射後の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
		⑮皮下注射後の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
		⑯筋肉内注射後の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
		⑰静脈内注射の実施方法がわかる	III	基礎	講義		
		⑱薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV	基礎	講義		
		⑲静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV	基礎	講義		
		⑳抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
		21 インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV	成人		講義	
		22 インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	IV	成人		講義	
		23 麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	IV	成人		講義	
		24 薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	IV	基礎	講義		
		25 輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる	IV	基礎	講義		
9	救命救急処置	①緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	統合			
		②患者の意識状態を観察できる	II	統合			
		③モデル人形で気道確保が正しくできる	III	統合			
		④モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	統合			
		⑤モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III	統合			
		⑥除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	統合			
		⑦意識レベルの把握方法がわかる	IV	基礎 統合	講義		
		⑧止血法の原理がわかる	IV	統合			

項目		当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	成人看護学	
10	症状・ 生体機能管理	①バイタルサインが正確に測定できる	I	基礎 小児 母性	演習	バイタルサインの測定	
		②正確に身体計測ができる	I	基礎 小児 母性	講義		
		③患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	基礎	講義		
		④系統的な症状の観察ができる	II	基礎	演習	フィジカルイグザム	
		⑤バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II	基礎 母性	講義		
		⑥目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	基礎 小児	講義		
		⑦簡易血糖測定ができる	II	成人		演習	簡易血糖測定
		⑧正確な検査が行えるための患者の準備ができる	II	基礎	講義		
		⑨検査の介助ができる	II	基礎 小児	講義		
		⑩検査後の安静保持の援助ができる	II	基礎	講義		
		⑪検査前、中、後の観察ができる	II	基礎	講義		
		⑫モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形で採血	
		⑬血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	IV	基礎	講義		
		⑭身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV	基礎	講義		
11	感染予 防	①スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	基礎			
		②必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	II	基礎	講義 演習	手袋・エプロンの装着	
		③使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	基礎	演習	(針を使う技術)	
		④感染性廃棄物の取り扱いができる	II	基礎	演習	(針を使う技術)	
		⑤無菌操作が確実にできる	II	基礎	演習	無菌操作	
		⑥針刺し事故防止の対策が実施できる	II	基礎 統合	演習	(針を使う技術)	
		⑦針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	IV	基礎 統合	講義 薬理学	講義	
12	安全管 理	①インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	統合			
		②災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる。	I	統合			
		③患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	基礎 統合	演習	各基礎看護技術演習	
		④患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	基礎 小児 精神統合	講義		
		⑤患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	基礎 成人 老年 小児 精神統合	講義		講義
		⑥放射線暴露の防止のための行動がとれる	II	基礎	講義		
		⑦誤薬防止の手順に沿った与薬ができる	III	基礎 成人 統合	演習	与薬方法	講義
		⑧人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	成人 統合			講義
13	安楽	①患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	基礎	演習	体位変換	
		②患者の安楽を促進するためのケアができる	II	基礎	演習	体位変換	
		③患者の精神的安楽を保つための工夫を計画できる	II	基礎 精神	講義		

	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
1	①				講義	
	②					
	③					
2	① 講義					
	②					
	③				演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦				演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	⑧				演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	⑨					
	⑩					
3	① 講義					
	② 講義					
	③					
	④				講義	
	⑤					
	⑥ 演習	おむつ交換				
	⑦ 演習	おむつ交換			演習	在宅における陰部洗浄
	⑧				演習	膀胱留置カテーテル管理
	⑨				演習	膀胱留置カテーテル管理
	⑩					
	⑪				講義	
	⑫ 演習	モデル人形で摘便				
	⑬				講義	
4	①					
	②					
	③ 講義					
	④					
	⑤					
	⑥				演習	福祉用具を使用した体位変換
	⑦				演習	福祉用具を使用した移乗
	⑧ 講義					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭ 講義					
5	①				講義	
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧				演習	在宅における入浴介助
	⑨				演習	在宅における陰部洗浄
	⑩					
	⑪				演習	在宅における洗髪
	⑫					
	⑬ 講義				講義	
	⑭					
	⑮			演習	沐浴	

	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
6	①				講義	
	②					
	③					
	④					
	⑤		講義			
	⑥		演習 吸入療法			
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭					
	⑮					
7	①				講義	
	②				講義	
	③				演習 褥瘡予防	
	④					
	⑤					演習 包帯法
	⑥					
	⑦					
8	①			講義		
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥		演習 乳幼児の輸液管理			
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪		演習 乳幼児の与薬方法			
	⑫					
	⑬					
	⑭					
	⑮					
	⑯					
	⑰					
	⑱					
	⑲					
	⑳					
	㉑					
	㉒					
	㉓					
	㉔					
	㉕					
9	①					演習
	②					演習
	③					演習
	④					演習
	⑤					演習
	⑥					演習
	⑦					講義
	⑧					講義

心肺蘇生
(AEDの使用)
(トリアージ)

	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
10	①		講義	演習 バイタルサイン測定		
	②		講義	講義		
	③					
	④					
	⑤			講義		
	⑥		講義			
	⑦					
	⑧					
	⑨		演習 骨髄穿刺・腰椎穿刺			
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭					
11	①					
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					講義
	⑦					講義
12	①					講義
	②					講義
	③					講義
	④		講義		講義	演習
	⑤ 講義		講義		講義	演習
	⑥					
	⑦					講義
	⑧					講義
13	①					
	②					
	③				講義	

1. この表の「項目」は『平成23年度 看護教育の内容と方法に関する検討会』で出された内容を明示している。

2. 「当校の卒業時到達レベル」は厚生労働省から示されたものを参考にしている。

- | |
|--|
| <p>I : 単独で実施できる</p> <p>II : 看護師・教員の指導のもと実施できる</p> <p>III : 学内演習で実施できる</p> <p>IV : 知識としてわかる</p> |
|--|

刊行物名	教育計画
発行者	滋賀県立総合保健専門学校 〒524-0022 守山市守山五丁目4番10号 TEL 077-583-4147 FAX077-583-8722
発行日	2020年4月